

『月の剥がれる』

作 広田淳一

執筆期間:2012. 12. 16-
甲斐2016. 08. 01-

【登場人物／出演】

朝桐太地 ……

田所美耶 ……

羽田充 ……

多野木ソラ ……

木下目蓮 ……

多野木テン ……

馬場三男 ……

南武祥三郎 ……

赤羽舍利佛 ……

ジュン ……

赤羽叶 ……

子供1／ジョー ……

但馬亮 ……

子供2／マーサ ……

菊池みのり ……

子供3／ハナ ……

井戸田恵 ……

母／カオリ ……

阿南寧々 ……

父／会田 ……

朝桐浩一 ……

ミシマ先生 ……

朝桐（和田）正蔵 ……

ナミ ……

朝桐菜津 ……

佐渡島律 ……

【前提】

◎前提／装置

◎前提

この劇は2つの時代／世界を行き来して展開される。

2つの世界はそれぞれ以下の前提に基づく世界である。

- A 極度に平和化された未来の学園。
- B 軍事大国化した「この国」が存在する未来社会。

◎装置

森にも教室にも見せることの出来る装置。

ト書きは便宜的に二階部分があるものとして記す。

◎表記について

- ☆ — 同じ数字の☆印を、同時に言う。
- ★ — 前の台詞の語尾に重ねて言う。いわゆる食い気味。
- ／ — 台詞の調子・方向性を切り替える。あるいは後続の台詞に断ち切られる。
- ▲ — それでははけながら言う。
- ▽ — 言いながら登場する。
- ・ — 間を取らない読点。

ト書きの「間」と「一拍」は、「一拍」の方が短い。

(このような) 括弧内の文字は発話されない。

このようにな傍点付きの台詞は強調の意味。強調して発音するとは限らない。

【1】 転校生

◎■A 覚醒夢

開場。

◆音響：曲：客入れ音楽

◆音響：曲：MO

◆音響：曲：覚醒夢のテーマ

おしまいに闇の中から大きな旅客機が離陸していく音が聞こえる。
開演。

複数の飛行機が飛び交う音。

おしまいに大きな旅客機が離陸していく音。

舞台上には、「ソラとテンの部屋」と「旅客機の内部」と「森」が同時に存在している。

ソラとテンの部屋。テンとソラは少し離れた場所にいる。

テンには両腕が無い。

テン おはよう。

ソラ 目覚めても目覚めても、目の覚めた心地がない。もしも、とか、考えてみる。

テン もしも。

イノリ・美耶 もしも。

ソラ もしも、「目が覚める」なんてことが本当はこの世に無くなると、目覚めても目覚めてもまだ、夢から夢へ引越してきているだけだったら、どうしていいの？

テン もしも、

イノリ・美耶 もしも。

ソラ もしも、あたしの部屋のドアを開けたら、「おはようっていらっやう挨拶が「キル・ユー」って意味になるのかもしれないって聞いてきて、どうしていいの？

テン もしも、

イノリ・美耶 もしも。

ソラ もしも、これが真新しいソラの始まりなのかじゃなくって、中絶した夢の続きだったら、どうしていいの？

一拍。

ソラ それでもあたしは目を覚めます。

テン かな？

ソラ おはよう。

▼音響：SFE 戦闘機の飛び交う音。ヒューンという何かが落ちてくるような音が飛び交う。

旅客機の内部のシーンが始まる。

機内には、子供たちと、その両親がいる。

子供たちは窓際の席に座っていて外の景色を眺めている。

大人たちは通路側の席に座っておのおの、目を閉じるなどして時間を過している。

子供1 わああ。

子供2 きれいだねえ。

子供3 きれいだねえ。

子供1 あ、「バビロン・タワー」だ！

子供2 ええ？ どういうこと？

子供3 ホントだ、「バビロン・タワー」だ！

子供2 あー あっちにあるのあれ、「じゅっあんブリッジ」じゃね？

子供1 はあ？ 何いってんの「じゅっあんブリッジ」じゃねえよー

子供3 へー、あれがそつなの？

子供2 ねえ、あれは？ あれなに？

子供1 あれは、あれは、んー。

子どもたち、窓の外を覗く。

子供2 燃えてるね。

子供3 燃えてるね。

子供1 燃えながら動いてるね。

子供2 燃えながら走ってるね。

子供1 燃えながら跳ってるね。

三人 燃えてるねえー！

子供1 (大人たちに) ねえパパ、ママ、外、見てよ、外！ 燃えてるよ！

父 んー、なんかの見間違えじゃないの？

子供3 いま見えているのにどう見間違えるんだよ？

母 いま見えているからって、ちゃんと見えてるかは限らないでしょ？

子供1 —— 何いってんの？

父 いいからお前らもちゃんと寝てけよ。

子供3 なんでもだよー。

母 ほら、ちゃんとアイマスクして。

子供2 うっとうしいよ、こね。

子供1 真っ暗になっちゃうんだもん。

父 真っ暗の方が、よく眠れるだろっしょ？

と、森の中を複数の人々（イノリ、みのり、ナツを含む）が歩いている。

みのり 返らない。

ソラ 覆水は盆になんとか。

投げられたサイはなんとか。

ルビコン川を渡ってなんとか。

みのり 燃えているものたちはみんな、

踊るような逃げるような、とても優雅なスローモーション。

ナツ 見ている。私は。

見ている。あなたと。

見ている。あの人たちを。

ソラ 離陸する飛行機の窓から半身を乗り出して、それを見ている。

ナツ 待っててねー！ 月の剥がれるその夜を。

みのり 返らない。

くしもくしせ。

命だけが、どこかへ行ったきり帰ってこない。

イノリ、何処かへ向かって手を振りながら、

イノリ あーん、あーん！ー！ あーい、あーい！ー！

テン くっくくくしゃーん。

生徒たち複数 くっくくくしゃーん！ー！

通字の風景となる。

場面転換。

◇音響：由 out 境界線のニアード

◆音響：由 in くっくくくしゃーんのニアード

教室。

複数の生徒たち(ジヨウ、まり、マーサ、ジユン、ハナ、会田、ソラ、南武)がおり、それぞれ着崩した制服を着用している。

一人の生徒(ナミ)が教室に駆け込んで来て、

ナミ 来た来た来た！

生徒たち、慌てて着席する。

そこへ、教師ミシマが登場。

ミシマ さあ、それじゃあ早速いってみましょう、最初の転校生はこちら、じゅんぞー！

転校生(田所美耶)が登場。

生徒たち、拍手で迎える。

ミシマ それじゃ自己紹介。とりあえず自己紹介をしていただきますしょう。ね？ 名前だけでも

結構です／＼田所美耶です。

一拍。

ミシマ 言っちゃった。言っちゃったよ、先生。

美耶 はい。

ミシマ (みんなに) 田所美耶さんですー！ さあ、言っちゃったけど、あえて、あえてじゅんぞー！

美耶 え？ えーと、田所、美耶と申します。

ミシマ ★聞いたよ。

美耶、驚いて教師を見る。

ミシマ 聞いたよさっき。な？ 田所美耶だ。あたしが言ったから。な？

美耶 — あれ、これ、なにをいいたらいいたでしてよじゅんぞー？

ミシマ 困っちゃったな。

美耶 はい、困っちゃいました。

美耶 拍手？

三ツツマ 美耶に拍手！(皆、拍手) 正解者に拍手！(皆、拍手) レイシストにも拍手！

皆、一斉に拍手をやめる。

三ツツマ ご覧の通り、うちのクラスには一人のレイシストも混じっちゃいない。ファック・ザ・人種差別！ 「博愛、平等、除菌」これ、うちのクラス目標だから。どうぞよろしく！

教師、握手を求め手を差し出す。

美耶 (手を差し出し) あ、はい。どうぞよろしく——

三ツツマ ★(手を引っ込め) おおっと、握手の前に除菌だ！ ジュン！

生徒の一人(ジュン)が除菌のためのアルコールを二人の元に持ってくる。

教師、美耶、共にアルコール除菌を施し、握手。

三ツツマ どうだい我らがA組の第一印象は？

美耶 あ、とても清潔、です。

教師 それだけか？

美耶 あ、あの、正直、馴染めるかどうかなあ、っていうのが心配だったんですけど、

教師 うんうんうん？

美耶 別に馴染まなくてもいいのになって——。

生徒たち おおー。

教師 そりゃあ良かった、って、っていう意味じゃいコリアおまえ！

生徒たち、笑う。

南武 あの、

と、生徒の一人(南武)が拳手。

三ツツマ ハイ、どうした南武くん？ (美耶に紹介する) あ、南武、祥三郎くんです。

美耶 はい。

南武 ええと、転校生というか、あの、え？ 美耶じゃん、その人。

おびおび生徒たち。

南武 いやあの、バリバリの学校の生徒だと思っただけですけど美耶って——。とかあれ？ なんすかこれ、俺、空気を読めてないっすか？

ミシミシ なんとでしよう、会田くん？

会田 「怒り」って、どんな感情だったんですか？

ミシミシ いろいろ質問ですねえ。そうなんです、現代人である私たちが「怒り」を理解するのはとても難しい。と、いろいろの、私たちには「怒り」がほとんど残っていない、退化してしまったからなとですね。手出してほしいな、手。

会田 あ、は。う。

教師、会田を招き寄せる。そして、ライターで火を点ける。

会田 アシアシアシ…。ちょっと何するんですか？

ミシミシ (威圧的に)「めん、間違えた。

会田、激しく納得のいかない様子。

ミシミシ ハイ、それですー。

会田 え、え？

ミシミシ うー！ 君の心の中にかすかに！ でも確かに！ 「なんだてめえ」「ノヤロウ」という感情が燃え上がったはずですよ。

会田 「なんだてめえ」「ノヤロウ」？

ミシミシ かすかに…。でも確かに…。掘めたんじゃないでしょうか？

会田 ——お、おす。

会田、席に戻る。

生徒たち会田を心配して声をかける。会田、大丈夫だと応じる。

ミシミシ 手を叩くな、こいつ注目を集め。

ミシミシ 一覧のとおり「怒り」はとても愚かな感情です。「なんだてめえ」「ノヤロウ」こんなことを言う人間が賢いはずがない。ですから、たとえそれがどんな種類の「怒り」であったとしても、この世には正しい「怒り」「なんでもものは存在しないんです。では、いったいどうすれば私たちは穢れた「怒り」から離れ、喜びに満ちた人生を送ることができるのか？ ——今日はそのあたりを、じっくり討論してほしいと思います。

と、チャイムが鳴る。

ミシミシ おおっと、転校生に気を取られていろいろうちですっから授業時間がエンプティだ。いっけねえっつ。それじゃ次の時間で具体的な事例を観ていこうとにいたしましたっつ。▲ナミちゃん、討論会用に机、並び変えておいてちようっだいな。

ナミ はい。わかりました。

教師、退場。
皆もバラバラと移動。

◎■A 授業 3 どこから来たの？

ナミ、ソラ、マーサ、ハナ、美耶を囲んでいる。

ハナ 変な先生でしょ？

美耶 え？ ああ――。

ソラ ちよつと頭おかしいんだ、ミシマ先生。

美耶 はい、なかなか個性的な――。

マーサ ねえねえ、どこから引っ越してきたの？

美耶 えつとあの、B組から。

ナミ ん、ん？

マーサ B組？

ハナ なに、B組からA組に「転校」してきたわけ？

美耶 あー、はい。

一拍。

生徒たち いやいやいやー！

ナミ 何いってんの(笑)

美耶 あ、おかしいですか？

ハナ だって、ねえ？

マーサ うんうん。

ソラ うちの学校、一クラスしか無いじゃない。

一拍。

美耶 ――ああ、そうでしたっけ？

ソラ うん。

美耶 じゃあ、ごめんー！ 違ったかもしれない。なんかもう別のところから！

南武 ねえ、あの、ちよつといいかな？

マーサ よくねーよ。

ソラ 南武かよ。

と、南武が美耶に歩み寄ってこい、

美耶 悪い意味があるんですか？

南武 いや、無いです。教えないです。や、教えますけどね、いや、教えないです。

南武、急にソラに近づき、握手をします。

南武 ありがとうございます。

ソラ お？ おおおお。

南武 ソラにいろいろいろいろあの、アドバイスしてもらったのが、ね、ようやくあの結果が、あざむき……

ソラ や、まあ、うん。

南武 (美耶に) じゃあ、あの、ちょっとこの後お話とか、そういう、そういうの、的な？

美耶 あ、はい。

マーサ え、美耶ちゃん。

ソラ どの行へんだよ、おい、南武？

美耶、南武、移動。女生徒たちもいなくなる。

◎■A 初めてのチユウ

校舎の屋上。

美耶と南武がいる。

美耶 平和な学校ヒトコですわねえ。

南武 え？ ああ、そうだね。

美耶 しかもすごいキレイなクラスですね、A組って。みんな優しくて。

南武 といつか、美耶もその、ずっと居たじゃないB組には？

美耶 ああ……。

南武 っつまあ、いろいろだけ別にねえは。

美耶 ぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶいぶい。付合わない。

南武 えーとだからその、なんだらうう、ううううその、仲良く、お話をしたり、

美耶 お話。

南武 あと、花火見に行ったり？ 手をつないだりとか。まあ、ぬくぬくはその先も……。

美耶 その先。セックスですか？

南武 まあ、セック、ん、おおっ……(ときなりの核心しこいなるね……)

と、カラスたち(正蔵・寧々)が二人を急襲する。

南武 うおおー！

美耶 危な！——この、オラァッ！（と、手近な小石を拾っては投げつける。何回か投げる）
南武 ちよっ、ちよっ、ちよっ、——なにやっつてんの美耶ちゃん。

美耶 やられたっばなしじゃ舐められちゃうでしょ？

南武 いや、ダメだつてー！ 怖いんだからカラスはホント。

美耶 そうなんですか？

南武 そうだよ。カラスに襲われたあ、とかいってたまにお婆さんが怪我したりとか？ 最悪死んじやったりとかあるでしょう？ わりと危険な動物だと思うからや。

美耶 （再び石を拾って投げつける）これはお婆さんの分！ これはお婆さんの分！

南武 やめてやめてー。ちよっ、——なに？ なにしてんの？

美耶 （当然のようについ）報復ですが？

南武 いや、報復ってそんな——。そもそもお婆さんの分って、それ、僕の諭え話にすぎないわけだからや。

美耶 でも、実際にいたわけですよ？ 被害に遭ったお婆さんは？

南武 まあ、そうだけど——。でも、美耶ちゃんのお婆さんではないわけだから。

美耶 え、べつにいついふはですか？

南武 えーと、だから——。

美耶 襲われたのがあたしのお婆さんだったら報復してもいいっていうんですか？

南武 んー、そうじゃなくて。カラスに石投げるのはまあ、人として、ダメだよ。カラスにはカラスの暮らしかあるんだから。

美耶 それじゃやらねっばなしじゃないですか？ 南武さん、あんまりふざけたこと言っていると滅ぼされますよ？ 油断しなさいよ。

南武 や、むしる言いますよ、危機感！ 美耶ちゃんはなに？ 人類を代表してカラスと戦っているわけ？

美耶 一團ムッコロ。Member of human ムッコロ。

南武 激しいな。

美耶 え、じゃあ、逆に聞きたいんですけど、南武さんはどんな時もカラスに報復することは許されないって思うんですか？

南武 んー。ま、だから例えばね、大切な人がカラスに襲われてる、とか？ そういつ時だったらしいのかもしれないけど——。

美耶 じゃあ、大切じゃない人の命だったら救わないってことですか？

南武 いや、そうじゃなげござ。だってまあ、命は平等に大切だと思うからな。

美耶 命は平等？

南武 そうでしよだつて？

美耶 だったら、え？ じゃあ、——目の前でお婆さんとあたしとカラスに襲われていて、それで殺されかけていて、もう、眼球にはかり執拗な攻撃を受けていたとして、

南武 （眩ぐすい状況だね——。

美耶 南武さんがどっちなか一人しか助けられないんだとしたら、どうします？

【2】創設者

【朝桐太地】

◎■A 授業 3 産みの親

教室。

生徒たち、教師がいる。

ミシミ さあ、それじゃ、討論会に先立って具体的な事例を学んで行きましょう。「」で観てもらうのは私たちが「怒り」を捨てるきっかけになった、「散華」の「物語」にしようです。

ナミ サンゲの「物語」？

ミシミ 命をかけて戦った、平和運動のお話です。

舞台上、別の場所では次の場面が整っている。

◇音響：曲 out 赤へのテーマ

◎■B 朝桐太地との接触

朝桐太地のアトリエ。

朝桐太地、羽田充、井戸田恵、菊池みのりが居る。

羽田 ご賛同、いただけませんかでしょうか？

太地 ん——。

羽田 朝桐さん、もう準備は整っているんです。これは、誰でもいいってわけじゃない、あなたにしかできない仕事なんです。私は——まあ、いちいち名前を出せませんが、すでに多くの方々から資金を預かっている立場です。

太地 へえ、出資者がいるんですか？

羽田 ええ。ただし、この団体のリーダーは芸術家として一流の人間じゃなきゃダメです。しっかりとした実力があって、実績があって、何より志がある。要するにそう！ 太地さんのような方がこの活動に身を投じるからこそ意味があるんです！ 迫力が、出るんです！

太地 あの、おっしゃっていることの意味はわかるんですけど、その、言語としては、理解できているんですけど。

羽田 なんですか？

太地 いやその、ちょっと買いかぶりすぎじゃないかなア、とか、アハハハハ。

羽田 何がおかしいんです？

太地 や、あの、すみません。なんかちょっと現実感なくって、アハハハ。

羽田、太地をひっぱたく。

太地 イッター！ なんていきなりブツンですか？

羽田 ヘラヘラ笑うのを止めなされ！

太地 やめなされって、ハハハ。

羽田、さらに太地をひっぱたく。何度か。

太地 すみません、すみません、もう笑いません、すみません。

ふいに羽田、思いつめたような態度で土下座をして、

羽田 申し訳ありませんでしたッ！

太地 ええええ？ いやいやいや、なんかさつきから展開が急すぎて、僕、心臓がバクバクいっぱなしなんですけど、(女たちに)なに？ この人はいつもこうなの？ なんかテンポが、なんとというか生活のテンポが、ちっとも掴めてこない感じなんですけど。

井戸田 すみません、今日はなんだか興奮しているみたいで——。

太地 嫌い嫌い、そういうの。落ち着いた人が好きだなあ。

みのり 先生に会って舞い上がっているんですよ。

太地 ヘー？ 舞い上がると殴っちゃうんですか、人を？ ヘー？

羽田 あなたのような優秀な芸術家が自覚を持ってくれないのが悲しいんです。私は、——悲しいよ……

太地 ハハハハ。あ、じいめんなさい！ もう、笑いません。はい。

太地、真面目な顔を作るが、堪えきれずに笑ってしまふ。

羽田 (女達に) 行けい。

井戸田 失礼いたします。

太地、帰ろうとする羽田を引止めよう。

太地 ああ、待つてー！ じいねは本当じい、いや、僕の悪い癖なんですけど、そうそう、ハハハ、なんか笑っちゃってますよ。

羽田 軽蔑しているかぶりですよ。

太地 いや、ハハハ！ そんなじつはない、全然、あなたたちのことを軽蔑なんて、ヒビ！
てないんですよ、本当に。オホホ。でも、なんていうんですかねなんか、アハハハ、ごめんなさ
ら、今日は酷いな、本当に。

みのり、太地にキスをする。
間。

太地 もう、笑いました。

太地、どこかに腰を下ろす。

みのり あのオ、先日、お送りしたパンフレットは？

太地 あーはい。読んだ、と、思います。

みのり (めいり)「読んだと思えます」？

太地 いや、なんかちょっと内容が難しかったんで、必ずしもその、ちゃんと理解できているか
どうか怪しいな、っていうのはあるんですけど、まあ、自分なりに？ 読んでみたかなア、と。
気分的に？

みのり 読んでいないんですかね？

太地 ★すみません読んでません！ じゃああの、さっきからいろいろ言っていたいて、おっ
しゃりたい事はなすとかなア、ハハハ、

みのり そうですか。

太地 でもあの、正直、自分、そこまで芸術家として成功してるかな？ っていったら、ちょっ
と微妙かなあ？ みたいな。

井戸田 そんなこと無いですよー！ ニューヨークやベルリンでも個展を成功させて。

みのり 先生が一流じゃなかったら、みんな困っちゃいますよー！

太地 まあ、その時も言えるんだけどしゃっせいな、だ。ただ、こないだも師匠には「じつは怒られた
ちゃいましたし」いや、怒られたっていつののも違うか——。

井戸田 どうかなさったんですか？

太地 うえあの、こないだ新宿の方で白書店と提携して個展を開いたんですけどね。

井戸田 すばらしいじゃないですかー！
みのり ねえ。

太地 まあ、ある程度固定客がいますから？。そういう、身内の人間はいろいろと褒めてくれる
んですけどね。でもあの、自分の「唯一」の、尊敬している先生といいますが、師匠みたいな方
がいるんですけどしゃっせいな、その方にはもういつかは、ハハハ、「ステイション」で感じて、ね、言
われちゃってます。ものすごい「優」な「お前」も「やめ」な「ご」の意味の「い」を言
われちゃってます。それで流石にねえ——。

みのり ——それじゃ、太地さんはもう、芸術家をやめちゃうんですか？

太地 いや、そこがねえ——。今更別の「い」を「い」って「い」ぶシ効かないですよ、

井戸田 でしたら、いろいろ運動に携わってみるのもひとつ、先生の美術を前に進めるきっかけになるかもしれないじゃないですか？

みのり そうですよー。

太地 まあ、それは確かに、ね。ちょっと思いつく範囲にはあるんですけど。

井戸田 スランプでしたらなおさら。ひとつ、充電期間と考えていただいって。

みのり 何もそんな、すべしメンバーが散っていくってわけじゃあ無いんですか？

太地 ああ、そんなさすわけじゃない、その何となくですよ。

みのり はい。

井戸田 せひ。

太地 ホントにあのオ、——大丈夫なんですかね？。つまりその、あのべらう散る危険性について

うのはあるものなんでしょうか？

みのり ー。

井戸田 そりゃゼロとは言いませんよ。ある意味、インチガケであることは間違いないから

ひ。

太地 ええ。

井戸田 でも、リスクを背負っているのは私たちも一緒です。

みのり そうですよ。みんな一緒です。

太地 そう、なりますよねー。

羽田 もちろん、——太地さんが散っていく可能性はあります。まったく安全な運動だなんてことはいいせんよ。ただ、だからこそ意味があるんですよ。迫力が、あるんですよ。敗北に際して何のリスクも取らない反戦運動、言つなれば、覚悟なき平和運動が、権力の側によって延々と無視されしつづけてきた、——それが現在のこの国の姿なのではないでしょうか？

太地 ー。

羽田 それにまあ、実際問題として危険性はそこまでするようになっていく状況ですよ。

太地 あ、そうなのですか？

羽田 そりゃそうです。だって現在のこの国がそういう危険のただ中にあるかと言えば、そんなことはないじゃないですか？

太地 ええ、まあ。

羽田 それに最後は抽選なわけですから。賛同者がどんどん増えていけばリスクだっただんどん低くなっていく。却ってに当たるようなものですよ。——あーそう！。それこの運動の可能性もまたあるわけですよ。自分が散っていくリスクを下げるためにも賛同者がどんどん運動を広めていく。国民の大多数がサングレに加入しているという国は、もう絶対に殺し合いなんできやしませんよ。そんなことをする政治家が選挙に勝てるわけがないですからね。

太地、少し歩いて電子タバコを吸う。

太地 まあ、リスクの問題についての僕の覚悟のひとつはなただけの覚悟で、なびは覚悟をすまわすわけじゃない、でも、なびは覚悟をすまわすわけじゃない。

井戸田 なにか問題でも？

太地 いやあの、ウチ、弟が居るんですけどね、

井戸田 ええ、ええ。

太地 そいつがあの、軍人なんですよ。そう、だからちょっと厳しいのかなあ、って。
みのり むしろ最高じゃないですか！

井戸田 ねえ！

太地 でも、なんか矛盾しちゃいませんか？ 弟が軍人なのに兄が平和運動をしてるって？

井戸田 逆に、「弟さんを人殺しにしたくない！」ってどういう気持ち？ そういって運動を始め
たって考えればよろしいんじゃないですか？

羽田 「君、死にたもうことなかれ」——最高じゃないですか！ 太地さん、やっぱりあなたは
僕にとって運命の人だ。こりゃあもう、やってもううしかありませんよ。

太地 いや、そこは正直、ちょっときついかなあ、と思ってたんですけど。

羽田 お願いします！ この国のため、——なんて言い方は、太地さんはお好きじゃないかもし
れませんが、どうか、未来を担ってほしい子どもたちのために。殺し・殺されるというものが決し
て起こらない世界のために、一肌脱いでいただけませんかでしょうか？

みのり お願いします！

井戸田 お願いします！

羽田、井戸田、みのり、上下座をする。

太地 けけけ、ケケケ。ケケケケ。

羽田 ケケケ？

太地 検討してみます。

場面転換。

◎■B 兄いもうと 1 太地の進路、浩二の進路

朝桐家の居間。夕食前の時間。

朝桐三兄妹、太地、浩二、ナツが揃っている。

ナツ やめといた方がいいんじゃない、そんなの？ また騙されてんだよ。

浩二 俺も反対だな。

太地 いや、でも「検討してみます」っていつっちゃったしね。

ナツ いいじゃんだから。「検討した結果、やりませーん」で。(浩二に)ね？

浩二 まだ返事はしてないわけでしょ？

太地 そうなただけで、そうなただけどまあ、ちょっとめんどだけ持ち上げられちゃうかね。

浩二 また始まった。

ナツ それ悪いクセだよホント？ ター兄ちゃん、そんなこと言ったって結局やりたくないことは続かない人なんだからさ。

太地 まあね、まあね。

ナツ 途中で辞めるほうが悪いでしょ？

太地 それはわかっているんだけどさ、でも意外と内容はしっかりしているってどうか／＼そう、パンフレットなんか読むと「あ、俺の考えと近いよなあ」「みたいな部分はあって、

ナツ なに、サンゲが？

太地 そうそう。

ナツ そんな、命を粗末に扱うような人たちが平和運動なんて言ったって、説得力無いでしょ？ 危険いっ。

太地 だからそれは、実際にそんな危険があるような運動じゃないんだって、そう言っているじゃないか？

ナツ でも、会員の誰かは犠牲になっちゃうわけでしょ？

太地 ま、状況によるとは思っただけどさ／＼実際、どうなのよ？ コーちゃん。

浩一 ん？ 何が？

太地 いや、うちの国の軍隊がね、海外で人を殺す可能性とかって、どんどんあるもんなの？ まあ、すべて、ってことはあんまり無いと思うけど。

太地 ★(ナツに) ホラ、ね？ だったら大丈夫じゃない、やっぱり？

浩一 でも、殺し合いなんていつ始まるかわかんないんだからさ。

ナツ そうだよ。

太地 ホラ、それだよ！ それ！

浩一 なに？

太地 いつ始まるかわかんないんだろ？ だったらコーちゃんが殺し合いに巻き込まれる可能性だってあるわけだ。違うか？

浩一 ま、可能性はね、常にあるけど。

太地 だいたいコーちゃんが軍人になるって言った時、一番反対したのは俺だからね？

ナツ あたしだって反対したよ。

太地 でもさ、結局、お前は納得しちゃっただろ？ 俺は全然、最後まで納得しなかったし、と、いつか今でも？ 今からだって辞めて欲しいって思っているくらいなんだからさ。

ナツ あの頃はなんか、ター兄ちゃんがそういうのにカブれてただけでしょ？

太地 違うよ。俺は一貫してそういっ、——立場なんだよ。

浩一 (ナツに) ま、流行りがあるから、兄ちゃんは。

太地 そんなことないよ。あー、だからいいか？ ——コーちゃんが人を殺すときにはな、俺を殺すと思っつてた。

浩一 ん、ん、ん？ なに急い？

太地 殺される相手にもそれぞれの家族がいて、それぞれの愛する人たちがいるんだよ。

浩一 ぶじつしたの？ 目がキラキラしてるといふよ？／＼想像はっはっはしているよ俺だって。

太地 っつ、っつ、っつ。ちやをっつ。ちやをっつ。ちやをっつ。ちやをっつ。

浩一 でも——ええ？(笑) 別に軍隊っていったって戦闘行為ばかりしてるわけじゃないんだからさ。基本的には訓練ばかりしてるわけだし。災害支援とか、戦闘地域での民間人保護とかさ、

太地 ★でもするんだろ？

浩一 え？

太地 でも戦闘行為だっけするんだろ？

浩一 それに雪まつりの雪像作りとか、

太地 ★雪まつりがしたいなら、雪まつりをしろ！嘘をつくな嘘を。

浩一 嘘じゃないよ、本当に作るんだよ。

太地 ★知ってるよ！え・じゃあ聞けど「コーちゃん」の目的は、なに？雪まつりなの？雪

まつりってなの？雪まつりしたいだけなの？

浩一 それも目的のひとつだよ。

太地 嘘ばっかつきやがって——。

浩一 いや、本当に作るんだよ。

太地 ★だから知ってるよ！毎年楽しみにしてるんだ！

一拍。

浩一 なんで俺が怒られてたの？

ナツ もうご飯にしよう。ね？向こうにオムライスあるから。

浩一 うんうん。そうしようしようしよう。

ナツ、浩一、席を立つ。

太地 コーちゃんが人を殺した時には俺も死ぬからな。

浩一 ——どうして？(笑)

太地 どうしてじゃないよ。弟に人殺しになって欲しくないってそれだけのことだよ。

浩一 軍隊だっけ必要な仕事なんだよ。

太地 そりゃそうでしょ。でもさ、別にそれ、コーちゃんがやらなくてもいいことだろ？

浩一 それじゃ警察は銃を持ってるからって人殺しなわけ？そうじゃないでしょ？

太地 だったら警察官になればいいだろ？警察と軍は、全然違うでしょうが。

浩一 たとえ話じゃな。

太地 ★俺はたとえ話なんかしてない！

ナツ いいじゃん、そんな話？ね？「ご飯にしようよオ？ね？

浩一 うんうん、オムライス、オムライス。

ナツ、浩一、移動しようとする。

太地 浩二！

二人、止まる。

太地 お前が軍人をやめないっていうなら、——俺はサンゲに入って平和運動をするからな。

一拍。

ナツ どういう理屈なの？

浩二 好きにすれば。

ナツ ええ？ ちよつと——。

浩二 仕方ないだろ、兄ちゃんがやるっていついてるんだから。

ナツ そんな無責任なこと言わないでよ。

浩二 (太地に)別に中心になって活動するってわけじゃないでしょ？

太地 ま、そうだね。名前貸しみたいな感じで？ 端っこの方で、こーそつり。

ナツ ホントかな——。

浩二 だったらいいんじゃない？ じぶんやらせてあげなほな。

ナツ えー。

太地 まあまあまあ、今度その、サンゲ？ の、準備会ていつかさ、キックオフていつの？ そ
ういつのがあるからさ、その時にいろいろ話聞いっ、そのととそれからまた、改めてゆっくうきえ
て結論出すからさ、ね？

浩二 うん。わかったわかった。ナツもいいだろ、そねで？

太地 な？

一拍。

ナツ 知らない。

◆音響：曲：ジャンボリーのテーマ

場面転換。

山奥のキャンプ場。

サングの準備会のため、参加者たちが集まっている。羽田充、木下目蓮、赤羽舍利佛、赤羽力、大工、馬場三男、但馬亮、菊池みのり、井戸田恵、佐渡島律、が居る。

◇音響:曲out シャンボリーのテーマ

▼音響:SE 森の音in

羽田 エー、本日はね、「中津川サング・ジャンボリー」と題しまして、まあ、簡単なサングの準備会とごいじゅうでお集まりいただきました。わざわざこんな山奥まであがりごいじゅうです。

羽田、参加者に向かってー礼。

羽田 「クソな命の廃品回収！ 無駄な命のリサイクル！」——ごいじゅうでね、スネに傷持っみなさんに集まってもらったわけですが、——エー、図らずも世間は、山の向いじゅうでいよいよ現実味を帯びてきた殺し合いについてにわか騒がしくなっております。おりしも、時、まさに今、開戦前夜！ そんな折にこのサングのキックオフが行われることにより一層の責任を感じております。——ともあれ！ このメンバーでサング、発足のための準備会を開催したいと思っております！

羽田、率先してひとり、拍手。皆も続いて拍手する。

羽田 エー、そんじやまずは主要メンバーだけでも軽く紹介していきましようか。ね？ まずはいちじら、木下目蓮さん。

目蓮 目蓮です。まあ、あの、いろいろ運営準備なんかをいちじらの、羽田さんと一緒にやらせてもらっています。

羽田 あのね、目蓮さんは偉いんですよ。サング発足にあたって、資金面でのバックアップをしてくださっている方はたくさんいるんですけどね、の、みなさん、ごいじゅう、実際の活動メンバーにもなっていて、さっしやいごいじゅう唯一の、もう、一番度胸のある方です。

目蓮 やあ、度胸のあるみなさんを応援したいな、と思っております。そもそも私とこの羽田くんとの付き合いがごいじゅうのは、彼がまだバリバリの証券マンだった頃からのものでございじゅう

羽田 ★まあ、話に出すじ長い人なのでこの辺にしてー。さっしやいじゅうがサングの発案者。思想的な、あー、ルーシと言っている人ですね。赤羽舍利佛さん。

赤羽 どうも、赤羽です。あの、自分が一人で考えていただけのことだが、こういった形で、えー、実を結んだというか、とてもありがたいことだな、と思っっています。(カナエを指し)こちらはあの――

カナエ あ、普段から兄がいろいろとお世話になっています。

赤羽 妹のカナエです。今日は付き添いでお邪魔させてもらいました。

カナエ よろしくお願ひします。

参加者、拍手。

羽田 そしてこちらが初代リーダーに内定しております、ご存知、現代アーティストの朝桐太地さん！

参加者、一層大きな拍手。

太地 あ、どうもどうも。なんか、あ、内定してたんですね。はい、あ、がんばります(笑)

羽田 ――問題ありました？

太地 いえいえ、全然、全然。

羽田 まあ、あとはね、一々紹介していてもいっぺんに覚えられないでしょうから名前だけ。じゃ、そっちの端っこから。

一三男 あ、えーと、馬場三男です。羽田さんの大学の後輩っていうか、はい。お願ひしゃーす。

但馬 但馬亮です。えーと、その、馬場さんの、友達というか、え、今日は来ました。びんごぞんご。

みのり 菊池みのりです。みのりって呼ばれてる。

井戸田 井戸田恵です。羽田さんとのアアシスタントについて聞かせてくださいお願いします。びんごぞんごお願ひ致します。

みのり あ、あたしもアシスタントです。

羽田 ま、ま、こんな感じですかね――。そして今日はですね、早速あの、取材というあれじゃないんですけど――フリージャーナリストの佐渡ヶ島さんにお越しいただいています。

佐渡島 いや、佐渡島です。

羽田 あ、これは失礼。

佐渡島 佐渡島律と申します。自分はこの、メンバーではないんですけど、今日はあの、オマケで、参加させてもらうことになりました。よろしくお願ひします。

参加者、拍手。

みのり オマケ！

羽田 近ごろうちに記者会見をしつづけておりますんで、佐渡島さんにはそんな時にまた、お世話になるかと思えます。

佐渡島 はい。

羽田 (懐から封筒を取り出して)「じゃあ、赤羽さんに書いてもらった原稿になっておまして、記者会見で太地さんに発表してもらおうかなあ、」と思っているものなんですが。

羽田、太地に封筒を手渡す。

太地 あ、これを、なんですか？ 僕が発表する？

羽田 そうなんです。

目蓮 こないだそういう風に話してまして。(赤羽に)ね？

赤羽 はい。お願いできますでしょうか？

太地 ああ……。でも、じつじつのはやっぱり赤羽さん本人がやったほうがいいんじゃないですか？「自身の言葉で、」ってことか――

目蓮 太地さん、それは違うんです。大衆にとって大事なものは「何を言ったか？」じゃなくて、「誰が言ったか？」なんですよ。

太地 そういうものですか。

目蓮 ええ。だからそれはぜひ、太地さんにやっていただかないと。

羽田 ま、まあ、いいえ、目だけ通しておいてください。

太地 ああ、はい。▲目だけ通して――。

散会になる。

場面転換。時間経過。

▽音響：SFE 森の音out

▼音響：SFE 夜の森in

◎B 赤羽の覚悟

夜の森。

赤羽、目蓮、羽田が話をしつづける。

▼音響：SFE 夜の森in

赤羽 そりゃあやっぱり僕が言い出したことなんだから、まずは僕が率先して散っていかないと、いけないんだろ？な、とは思ってますよ。じゃなきゃ納得しないでしょう、みんな。

目蓮 (嚙みで言めるように)「赤羽さん。それはまあ、――とてもよくわかります。」

赤羽 ええ。

目蓮 赤羽さんのそういう覚悟のもとでサングをスタートできるってこと。それは、とてもうれしく思っていますよ。私せ。

赤羽 じつでもないです。そんな、ね、名も無い人間のインターネットのじぶみやきなんかを、ここまで大きくしてもらったのは、目蓮さんと羽田さんのお陰じゃないですか。

羽田 ちやうや。

目蓮 金出ただけですよ、私は。

赤羽 いやでも、正直いってお金はこの運動にとって一番のネックでした。なんでもそうでしょうけど立ち上げが一番ね、お金も、人手もかかるものだから。

羽田 とはいったって、いつからが肝心ですよ？ ——はじめるのは勢い。やめるのも勢い。続けるにこそ、大人の忍耐です。

赤羽 ああ——、そういつ考えもありますか。

目蓮 つもあれ、赤羽さんには自分・生きていくつもりもありませんよ。

赤羽 いや、それは本当・自分も残念なだけじゃ。

羽田 ★いやいやいや、ダメですって赤羽さん。

目蓮 まだそんな甘ったれたこと考えてるんですか？

赤羽 だって、もともと僕が言い出したことなから——、

目蓮 ★確かに、赤羽さんの言いつとおり・いいだして入るが、いちばん最初に散るっていいよ、そのやあ肝心ですよ。インパクトが違いますから。

赤羽 はい。だから——

羽田 ★だからちゃんと代わりに散ってくれるリーダーを用意したんです。

赤羽 あの、太地さんですよ？ そんなこと、お願いできるわけじゃないですか。

羽田 いやいや、見たでしよう、あの面魂おもたま？ 彼はもう、腹くっけてます。

目蓮 (羽田に) いい顔してたねえ。

赤羽 その話はやめましょう。悪いですよ。とまません。

目蓮、ため息をひとつしりゃ、

目蓮 いいですか？ 赤羽さんは本当にオリジナルな人間なんです。サンゲの思想を考えた張本人じゃないですか？

赤羽 まあ、そうなんだじゃ。

目蓮 だったら真つ先に逝っちまおうなんて、そんな虫のいい考えはやめてください。

羽田 赤羽さん、これからこの集団ではじぶん人が散っていくわけじゃないですか。しかも本当は、まだまだ生きていきたい、そう思っている人間がですよ？

赤羽 うん、そうだね。

羽田 そりゃあものすごく嫌な気持ちですよ、僕だって。なのに赤羽さんは発案者のくせに、そういう一番辛くて暗い場面を一切見ないで？？ それでやっせと自分だけ逝っちゃおうっていついっしょですか？

目蓮 ★とんだナルシストですよ。

赤羽 いや、そんな、ナルシストだなんて——。

目蓮 ★いやいや赤羽さんはね、自分なるべく理想的でカッコいいリーダーとして死んでいき
たいんですよ。「卑怯者ー」とかね、——「うそつきー」とかね、「権力者ー」とか、そういう
ことだけは言われたくないですよ。違います？

赤羽 そりゃ、そんなことは無いけど、それは——。

目蓮 覚悟してください。赤羽さんはこれから、卑怯者でうそつきの、権力者になるんですよ。

赤羽 ——それじゃ、まわりの人間が納得しないだろうし。

羽田 ★「納得しないですよ」「じゃない、させるんですよ——」

一拍。

赤羽 確かに、ちょっとその、覚悟が足りなかったのかもしれないですね。そんなその、ナルシ
ストだなんてことは、全然、考えてもみなかったただけ——。

羽田 ね？ 甘いですよ。僕なんかあなたを見た時から、「ナルシストだなあ」ってことしか
考えてないくらいなんですけど。

赤羽 ——ただの悪口じゃないですか、それは？

目蓮 生き延びてほしい。じゃなかったらもう、こんな運動はやめたいです。

赤羽 いや、そんなこと言わないでくださいよ。そんなこと——。

カナエ お兄ちゃん、

赤羽 ああ、カナエ。

と、カナエが登場している。すこし怯えた様子。

カナエ もう寝る時間過ぎいっしょよ。

赤羽 ああ、そう？ もうそんな時間になる？ ああ——。

羽田 もう、今日は休んでほしいって結構ですよ。一応、準備会としては順調に進んだわけでは
から。

赤羽 はい。それじゃ、僕はお先に。

目蓮 はい、おやすみなさい。

赤羽 失礼します。

赤羽、カナエ、退場。

羽田 (カナエに) ちゃんと布団かけて寝てよー。朝、冷えるからー。

▲カナエ はい。

▲赤羽 もう歯磨きした？

▲カナエ うん。お兄ちゃんのも持ってきましたよ。

▲赤羽 ありがとう。

羽田 (真似して) 「もう寝る時間過ぎたよー」

目蓮 ガキじゃねんだからよ、まったぐ。

羽田 ハハハ。

目蓮 で、なんだっけその、朝桐太地クン？ 彼の説得は済んでるんだろっな？

羽田 まあ、確約じゃあないけどね。ほぼ。

目蓮 ああ？ 大丈夫かよ？

羽田 ヘーキヘーキ。あとは押しきれるかな、ってところまでは来てるから。

目蓮 少しはいい気分になってもらっとけよ。今のうちだけなんだからさ。

羽田 だから、めちゃくちゃおだててるよ。も・煽^{あお}って、煽^{あお}って。

目蓮 得意だろおまえ、そっついの？

羽田 フフ。あ、また蚊に喰われた。

目蓮 虻だ、虻。動くなよちよっつ (羽田に留まった蚊を打つとすする) ——ああ！
羽田 (かわして) 絶対見えてないだろ。

一拍。

目蓮 最初に散るのはまあ、誰でもいんだけどね、

羽田 っつ。

目蓮 その後釜^{あひぼ}が肝心になるわけだよ。ちゃんと説得力のある人間が後釜にいないとな。

羽田 ええと、なんだっけこないだ言ってたあの——

目蓮 ゾンビか？

羽田 そっつ、それ！ ゾンビの身体^{からだ}を持ったリーダーとかっついたらやっつだよな？

目蓮 そっつそっつ。「死んだら許してあげましよう」ってのがこの国の流儀^{りゅうぎ}だからよ。指詰めるのだから、頭丸めんのだからそっつ。部分的に体をゾンビにして、「ちよっつだけ死んだから許してちよーだい」っていうさ、その痛みが説得力に繋がるわけだ。

羽田 だから、家族を失ってるっていう事実が後釜の説得力を何倍にもしてくれる——。

目蓮 そっつそっつ。

一拍。

羽田 でもあれだな、目蓮はやっつは興行師^{こうぎょうし}にや向かないな。

目蓮 お？ どういう意味だよ？

羽田 顔、顔、顔。顔がもう、悪^{アウ}すぎる。

目蓮 フン。善人面した政治家なんて誰が信用するかよ。

羽田 候補者段階でこっただけ悪人面つても珍しいよ。▲あ、おでこに「善」って書いてどうか？

▲目蓮 バカ。これでも赤ん坊にはいつも懐かれるんだよ。

▲羽田 へー？ 目が見えてないんじゃないの、その赤ちゃん？

▲目蓮 てめえ。そんなぐらいいいよ。

二人、談笑しつつ退場。

場面転換。

◎■B カナエ、赤羽

キャンプ場の別の場所。

赤羽とカナエがいる。

カナエ すっごいね、なんか。びっけりした。ちょっとだすけいじだよ。

赤羽 うん、そうだねー。

カナエ みんなのなんか、エネルギーみたいなのをすっごい感じたし。だってあれでしょ？ お

兄ちゃんの考えたことをみんなで行きしようみたいなさ、そういうアタシで集まっているでしょ？

赤羽 そうだよ。だからまあ、本当に羽田さんと目蓮さんには感謝してるんだよ。

カナエ うん。そうだね。感謝しないとだね。

一拍。カナエ、上気した顔つきで黙っている。

赤羽 どうかした？

カナエ あたしも何かしたい。

赤羽 え？

カナエ これで世界が平和ってものに少しでも近づくんだったらあたしもなんかさ／＼

赤羽 待って待ってそれは、え、サンゲのメンバーになりたいってこと？

カナエ になりたい。うん。

赤羽 や・ダメだよそれは。それはだっつて、お考えでしょ。

カナエ 考えたよ。それで私もなんかしたい、っついで。

赤羽 いや、それはすっごく嬉しいんだけど、お前——あ、前はすっごく反対してたじゃない？

カナエ うん。反対だよ。なんか間違っつてお前は思ってた、せ。

赤羽 ああ、そうだよね？

カナエ だって人が人を殺すのはいけない、とかいってんのにさあ、一人死んだら一人死ぬ、とかいって？ 命を数字みたいに考えて、そんなの絶対間違ってるよ。でも、なんていうかうまく言えないけど、実際にみんなの顔を見てたら、すごいエネルギーを感じたし、それになんか、入っちゃえばあたしもみんなと仲良くなれるかもしれないし、

赤羽 なれないよ仲良くなんて。無理だつて。

カナエ なんでよー？

赤羽 だって友達と仲良くなれたことなんて一度もないだろ？

カナエ ひっどーい。そんな言い方しなくなつていいじゃない。

赤羽 やめてよそんな。危ないことなんだし／カナエはまだ若いんだからさ。いろいろやれることだつてあるし、こんなことに関わっちゃ絶対ダメなんだつて、

カナエ そんなこと言つんだつたら一人で来ればよかったのに。

赤羽 それはダメだよ。

カナエ どうして？

赤羽 だって怖いでしょう。そんな、知らない人ばかりのところには。

カナエ でも、あたしだけなんかメンバーってわけでもないのにこんなとこまで来ちゃつてさ。絶対みんなへんだと思ってるよ。

赤羽 思っていないつて。いいじゃない付き添いなんだから。へんじゃないよ、全然。

カナエ じゃあ、もう来なくていい？

赤羽 それは来てよ。それは来てくれたつていいじゃない。

カナエ ズルいよなんか。それでカナエは若いんだからがんばれとか言われたつてさあ。

間。

カナエ もしこれでお兄ちゃんが居なくなつちゃったら、あたしたち結婚できないね？

赤羽 うーん、大丈夫だよ。しばらくは守つてくれるみたいなこと言つてたし。

カナエ じゃあ、しつへねん？

赤羽 結婚？

カナエ うん。

赤羽 それはちよつと、それはだから、待つてよ。

カナエ ズルい。

赤羽 ズルくないよ別に。僕はだつて、責任があるんだよ、いるいるよ。

カナエ あたしに対しては？

赤羽 もちろん、あるよ。もちろん。

ふたり、キスをすん。

照明変化。場面転換。

舞台上、別の場所。

みのり、但馬、一三男、井戸田、太地が居る。

井戸田 これもつなななですかね？ このまま殺し合いが始まっちゃう感じなんですかね？

但馬 山の向いの話？

井戸田 そっぴすそっぴす。

みのり あー、どうなんだらうかね？

一三男 まあ、実際に殺し合いがはじまっちゃったら、まったく無関係ってわけにもいかないんだらうしね。

井戸田 ですよねえ、やっぱり。

太地 いやでも、おぐにこの国が善き込まれるってことは無いと思えますけどね。

一三男 ああ、そっぴすか？

太地 ええ、多分？ いろいろとホラ、法整備なんかもあるんだらうし。

みのり っっていつてもねえ、ゆうてまー、人死んじやっってっからねー。

但馬 会議で終わらせよう、っって国じゃないかね、どっちも。

井戸田 でもこんな時にそ冷静になって？ みんなでちゃんと話し合いを続けなくちゃいけないと思うんですけどね。

太地 話し合っ？

井戸田 はい。きつと今頃後悔してると思うんですけど、あの国だって。いや、わかんないですけど

でも多分、死人が出るまでは思ってたんじゃないですか？ あくまで威嚇射撃ってっつか、

但馬 そっかなあ？

井戸田 そうですよ、きつと。だから今、必死になって妥協点を探しているんじゃないですか？

但馬 違うと思うけどな(笑)

一三男 狙ってやってんじゃないの、今回は？

井戸田 わかんないじゃないですか、そんなこと。

但馬 でも、間違いでしたで済まされることじゃないしね。

井戸田 まあ、そっぴすけど――。

太地 ★あれ、結局何人亡くなってるんですけど？

みのり んー？

太地 十九人？ あれ、二十人になったんですけど？

一三男 いや、十九じゃないすか。

井戸田 負傷者を合わせたら五十人近くにはなってるみたいですけど――。

みのり あちゃー。

但馬 向こうも引くに引けないんだらうしね。

井戸田 だからサンゲも、いろいろと急がないといけなくなるんじゃないですか？

一三男 だろっな。

太地 あー、そうなんですか？ 急ぐ？

一三男 はい。なんか記者会見とかちゃっちゃとつかないで、この国が巻き込まれてから抗議しますっていつても遅いじゃないですか？

井戸田 だからある意味、ナイスタイミングとも言えるわけですけどね。

みのり ああ。

井戸田 ★いや、不謹慎だとは思いますが、こんな言い方は、

太地 みなさんはそういうふう、覚悟は出来てるんですか？ サングの活動で、って言う——？

一拍。

みのり そりゃあね。

一三男 まあ、ぶっちゃけ、一切出来なくなってますけど。

但馬 ハハハ。

太地 あ、ですよね、やっぱりなんか。

一三男 でも実際さういふことになったら、まあ、ね。やるんじゃないですか？ やるってさういふわけですよ。

太地 ああ——。

但馬 イザってなるときに田和っちゃって？ 「やっぱり散りませーん」なんて言ったって、誰も笑わないじゃないですか？

太地 ハハハ。そりゃそうだ。誰も笑わない。ハハハ。

と、佐渡島、登場。

一三男 (佐渡島を見上げ) あー。

佐渡島 みなさん、お集まりですか？

井戸田 ええ、ちょっとみんなだけ、

一三男 ああ、なんかよろこぶお願いです、あの——。

みのり 鬼ヶ島さん！

佐渡島 いや、佐渡島、です。

一三男 やあ、サーセンね、何度も間違えちゃって、猿渡さん。

佐渡島 いや、気にしないでください、佐渡島ですって……(こじこじ) (おお。)

みのり へこへこおね。

佐渡島 いや、

但馬 じつはわかっているんですけど、種ヶ島をたじ。

佐渡島 いや、だから、

太地 やめなせえって、ちやうど。

井戸田 それで、お元氣になさってらるるんですか、侯爵は？
太地 侯爵？

井戸田 ええ。サド侯爵——

佐渡島 それキレく無いんですか？ 「サ」しか合ってないですよ？ 「サ」しか？

井戸田 さ、ど、まど合ってます。さ、ど、まど。

みのり 適当なこと言ってるじゃねえぞ、こらにやる——

一同、笑う。

一三男 あー、もう入りました？ お風呂。

佐渡島 いえ。僕はまあ、一泊ですとど——。

太地 所詮シャワーですしね。

佐渡島 ええ、まあ。

但馬 汚いし、マジだ。

みのり 温泉あればいいのになー。

井戸田 ねえ。そついつのがあればまた来ようって気にもなるのに。

佐渡島 え、なになさってたんですか？ みなさんは？

但馬 それは命令ですか？

佐渡島 え？

但馬 それに答えることは命令ですか？

佐渡島 いや、命令じゃ無いですけど——。

一三男 やめようぜもう、絡みづれーんだよウチら。サーセンね、これからお世話になる人に。

佐渡島 いや、僕はまあ、興味本位で来てるだけなんで。

みのり ★見世物^{みせもん}じゃねーぞこんにやる——！

一三男 やめろって、みのりー！ おめーはホントに——。

太地 (佐渡島に) あー、今、花火してたんですよ、向こうで。

佐渡島 花火？

井戸田 ええ。私の家に、以前いただいたものがありました。

みのり も、でっかいのすっごい。セットで。なんか、いっぱい入ってるやつ。

佐渡島 ああ——。

太地 ちようどさ、終わっちゃったことごと。

一三男 そんでみんなだべってたんですよ。あのホラ、山の向こうの話とか。

佐渡島 ああ、大事件ですもんね。

井戸田 ええ、ホントに。

但馬 え、ちゃんと稼げるんですか？ フリージャーナリストって。

佐渡島 やー、食つや食わずですよ。特に僕みたいな。へー。へーはもう、記事が売れなきゃただの
プー太郎ですから。

みのり そうなんだあ。

佐渡島 はい。

但馬 ★普段はやっぱりあれですか？ 事故現場とか？

佐渡島 いやあ、そういうのは大手がやりますんで。まあ、僕はあの、個人的にヤンキーをずつと追っかけて取材してたんですけどね、あの、滅び行く暴走族、なんていって？

但馬 へえ。

一三三男 ★え、じゃあうちの取材もその一貫で？

佐渡島 まあ、そう、——では無いですよ全然。政治運動の一貫として？ 硬派な若者たちに迫ってみようかな、と。政治に目覚めた若者たち、みたいな？

一三三男 あー、はいはい。

みのり え、怖くないんですか？ 暴走族？

佐渡島 ま、ちゃんと筋を通してやれば。怖いっていつんならみなさんの方がよっぽど、ねえ？
だって万が一・状況が整ってしまったり、まあ、ね？

一拍。

みのり でも、わかんないっすよねー。

佐渡島 え、何がですか？

みのり なんか、どっぴろい風になったら「覚悟が出来たー！」って言うんですかね？

佐渡島 うーん？ どっぴろいのは？

みのり やあ、他のみんなは出来てるのかもわかんないんだけど、覚悟っていつか？ でも、あたしはどっぴろいなんだーとか思ってちゃって。出来てるのかな？ わかんないよね。わかんないからいつか。しめろ。

◆音響：曲「殺し屋のヒーロー」

と、近くでロケット花火の発火する音。続いて炸裂音。

井戸田 わあっ！

一三三男 うお。びっけりしたー。

みのり ああ、さっきのあれ、花火の残り？

但馬 不発弾。

太地 嫌い嫌い、どっぴろいの。ハハハハ。

ゆるい空気。

一三三男 まあ、無いっすよねえ。現実感。

場面転換。

【第一次散華テロの発動とその成功】

◎■A+B Eの向いじつに殺し合いが始まる 1

教室。

授業の場面となる。教師ミシマ、生徒たちが居る。

ミシマ 「サンゲン」が誕生してほどな、へ、へ、山の向いじつにどいかの国で殺し合いが始まりました。

それはこの国にいついつとも大きな事件になりました。いついつのも、この国の軍隊が始まって以来、初めて、他国の犠牲者が生まれてしまったからです。

ナニ 他国の犠牲者？

ミシマ それはたった一人の犠牲者でしたが、とても大きな一人になったんです。

ジユン へー？ ぶついつ？

浩一、記者たちが駆け込んできてる。生徒たちがそのまま記者たちに変化する。

記者1 朝桐少佐！

記者2 朝桐少佐！

記者3 コメントを一言！

記者4 一言お願いします！

記者5 現場で指揮をとっていたのは朝桐少佐といついつとどいかなのしょうか？

浩一 その通り。私の部隊です。

記者たちびびり始める。

記者1 今回の作戦について一言！

記者2 少佐！

記者3 一言！

記者4 一言お願いします！

浩一 特にコメントすべきことはありません。我々は粛々と任務を遂行したまでです。以上。

記者5 待つてください少佐！

記者1 コメントをお願いします！

記者2 コメントを！

浩一、現場。

記者たちそれを追って、退場。

舞台上、別の場所がサンゲの事務所となっている。

目蓮、赤羽、太地、二三男、但馬、みのり、井戸田が居る。

舞台上の別の場所では授業が続いている。

赤羽 ああ、もう、どっぴりどっぴりなっちゃったんだ。ひどい。

目蓮 さあさあ、勇気を出してんださい、赤羽さん。

赤羽 はい、すみません。

目蓮 それでは満を持して抽選会と参りましょうか。

目蓮、トランプを持っている。カードを手に持ったまま広げ、みなに提示する。

再び、授業の場。

ミシマ 「サンゲ」は、人命を奪つあらゆる軍事的な行動に対して自らの命を賭けて抗議する、そういった平和運動だったんです。

◇音響:曲off 殺し合いのテーマー

再び、サンゲの場。

目蓮 (全員に向かって、口調を変え) スペードのエースを取ったものに第一回の抗議を行ってもらう。では、みんな一枚づつ。出張中の羽田の分は太地さん、あなたの方で取っていただけますか？

太地 ああ、ぼ、僕ですか？

目蓮 ええ。代表以上の適任はいらっしゃらないと思いますので。

太地 は、はい。じゃ、じゃあ、まず、羽田さんの分を――。

目蓮 お願いします。

太地、カードを一枚取る。

井戸田 お預かりいたします。

太地 あー、はい。

井戸田、太地からカードを受け取り、皆に見える位置に裏返しのまま置く。

目蓮 では、あとはみんな一枚づつ。

メンバーがそれぞれカードを引く。カードはまだ見ない。

目蓮 カードを開けて。

みな、それぞれにカードを見る。

太地 あれ？ これ、あれ？ あー、なんか、スヘードのエース？ でしたっけ？

目蓮 はい。

太地、皆にカードを見せる。スヘードのエースである。

太地 「当選」しちゃったみたいなんですけどー。なんつって。ハハハ。

間。

一三男 そうっすか。

目蓮 一三男、詳しい「抗議」の手順について確認してあげて。

一三男 はい。

但馬 それじゃあ、向い側の部屋へ。

一三男 まあ、ゆっくりに話してちょうか。

太地 いやいや、あの、ちょっと待って下さー、えーとあの、いったん羽田さんとお話をさせていたいただきたいなあ、なんつってー。

目蓮 何を話すんです？

太地 いや、まあ、そのー。

目蓮 遺言ですか、そういった類のものであれば私が伺います。それとも何か、——別の相談でしょうか？

一拍。

目蓮、突然土下座をして、

目蓮 申し訳ありませんでしたー！

太地 ええー？ ちょっとちょっと、やめてくださいよ。なんですか急に、

目蓮 もちろん！ ——太地さんにはこの決定を拒否する権利が残されています。当然です。しかし一方で、現に強要するようないきなり空気を作ってしまったことについては、それも承知しております。それに関しては大変、申し訳なく思っております、ただ！

目蓮、立ち上がり、

目蓮 (静かに)ただ、ここから先はもう、話して決めていきますよではありません。すべては太地さんのご決断でお願いします。——しかしながら、もしー！ 一三男が太地さんに代わって、もう

一度、誰か別の抗議者を選ぶような事態に立ち至った場合、——サンゲは、ここで解散せざるを得ないものと、どうか、そのことだけはお留置きください。お願いしますとは申しません。しかし太地さん。——じぎ、我々もお傍に参ります。

目蓮、一礼する。他のメンバーもそれに続く。

太地 けけけ、ケケケ。ケケケケ。

目蓮 ケケケ？

太地 検討してみます。

太地を残し、全員退場。
場面転換。

◎■B 兄いもうと 2

朝桐浩二の家の前。

ナツが家の前で待っており、そこへ浩二が帰宅する。

浩二 あれ？ ああ、ナツじゃん？ おお！

ナツ お久しぶり。

浩二 お？ なんかちょっと痩せた？ 痩せてない？

ナツ そんなん別にどっちでもいいんだけど、

浩二 わざわざ来てくれたの？ やー、なんかさっき母さんから電話あってさ、

ナツ そう。——なんか聞いてる？

浩二 いや、ちょっと出られなかったからあとでまた、と思ってただけど、

ナツ ——。

浩二 うん、まあ、大丈夫だよ、俺は。なんか、——ありがとな。

ナツ ター兄ちゃんが死んだよ。

浩二 ——は？

ナツ 朝桐太地が死にました。

浩二 ちよちよちよちよ（笑） え？ なにいつてんの、止めてよ。

ナツ こないだの軍事衝突に抗議して、ってことらしいよ。

浩二 待って待って、どっいつのこと？ 死んだって、え、ホントに？

ナツ うん。

浩二 ていつか、え？ ホントにもう死ん、じゃったの？ 確定してるの？

ナツ ——なんか、今朝、動画が送られてきて。

浩二 動画？

ナツ サンゲの人は死ぬとこを動画に撮って公開するんだって。

一拍。

浩一 何をいつてんだあんたたちは——。

目蓮 「理解いたたくのは難しいかと思つんですが、

浩一 ★難しいね。出来るわけ無いだろ「理解なんて、こんな、ふざけた話——」

一拍。

浩一 (怒気を含まず) まあ、一応確認をせしただけですよ、えっ。つまりいついつにや
すか? 「兄貴の遺体については何も知らない、警察が捜査を始めているけど何の情報も入って

来ない、要するに、私たちに言うことは何もありません。」「

羽田 ★これは——憶測の域を出ない話なんですが。

浩一 何ですか?

羽田 警察の方で、「遺体を管理しているのかもしれません。」

浩一 ——なぜ?

羽田 それはあの、サンゲの活動内容に関わっているんじゃないかと思ひます。警察といつても
はもつと大きな権力が介入して、捜査を止めてしまっている可能性があります。つまり、行方不
明扱いにしてしまうことで太地さんの抗議活動が持っている迫力を、少しでも減らしてしまおう
と「いつ、いつ」思惑があるのかもしれない。

一拍。

羽田 ただ、浩一さん。大変僭越なことを申し上げるつもりで恐縮なのですが、どうか誤解をしな
いでいただきたいんです。あなたのお兄さんは、事故や事件に巻き込まれて「亡くなったわけでは
ありません。」「いつかさう、いつか思われなうございました。太地さんはあくまでも自分の意志で、
人が人を殺すことに対して、「いつ、いつ、つまり、間接的にはいえあなたがなされたことに対して命懸けの
抗議をなさつて、「いつ、いつ、いつ」なられたんです。

赤羽、浩一の前にもつこの封筒を差します。

赤羽 「こちらを、あの——、

浩一 ——遺書ですか?

赤羽 いえ、サンゲの、理念について書かれた書類です。どうか太地さんの意志を、少しでもい
の文章の中から感じ取っていただければ幸いです。」「いつか?」

浩一 ——「怒、怒は取ってあげます(怒)」「いつ、いつ、その場を去る(いつ)」。

赤羽 ありがとう(いつ)ね(いつ)。

羽田 朝桐浩一さん(いつ)。

浩一、動きを止める。

羽田 大変、申し上げづらいんですが、私には、どうしてもあなたに言っておかなければいけないところがあるんです。それはその、どうかあなたに、この会の代表を引き継いでいただきたい。

浩一 ——あなた自分が何言ってるかわかったのか？

羽田 わかってるつもりです。それでも言わせて下さい。あなた以外に、これをやれる人間はいないんですよ。

赤羽、田蓮、井戸田、但馬、浩二に一礼して退場する。

続いて、羽田も一礼して退場。

みりりは少し残って、何かを話しかけようとするが何も言葉が出てこない。改めて頭を下げ、

みりり すみませんでしたー！

◆音響：曲「月に行へロケットのテーマ」

みりり、退場。

一人残された浩一が封筒から紙を取り出し、それを読む。
場面転換。

◎■B 朝桐太地の場合

太地と二三男がくる。

太地が生きてるのは、自決する直前のその時間である。太地は前のシーンの間に撮影のためのカメラのセッティングなどを終えている。二三男が同席している。

太地 たじえはね、月に行へロケットを初めて作ったヤツがいたと聞いて、どうか実際にいたんだけどね、そっすいすいと思わない？

二三男 は。す。す。す。

太地 熱いでしょ？ めっちゃ熱い。そんなにあう度ね、火星に行けるロケットを作ったやつは、どう？

二三男 まあ、す。す。す。

太地 す。す。す。むしろ技術的にはそっちの方が全然す。す。す。ただね、どっちが熱いかっていったらもう、断然月に行へロケットの方がと思わない？ 火星につきましたー。ああ、そっすか、ってなもんだよ。月に行った時には「きゃーっ！」って叫び絶叫してさ、それこそションベン漏らすくらいびびってたの、ハ、ハ、ってなもんだよ。——万事その調子なんだよ！ 人類ってやつは万事その調子なの！ だからさ、リセットする必要があるんだよ。世界を壊すことにも意味がある。人間が死ぬってことにも意味がある。そっす思わない？

一三男 リセット、すすか？

太地 そう。一回、リセットして、誰も月になんて行ったことがない、っていうそういう世界に戻す必要があるんだよ。その方が断然・熱いでしょ？

一三男 ああ、熱いっすかね。

太地 大問題だよこれは。世界中の人間が「ああ、もう俺なんかにはどうせやることは何も残ってないな」って思っ生きていくか、まだまだやってないことが山程あるって思っ生きていくか、——大問題なんだ。

一三男 はい。そうっすね(笑)

太地 ——いろいろあったんだよ。意味が無いってことに意味を見出そうとしたりね、一番意味がないことをやったやつが勝ち！ みたいな戦いもいっぱいあった。もう、やったんだよ。現代美術ってのがどこにいったか君もちょっと見てくわねばね、いろいろ、どんな人たちがどんな苦しい顔をしながら、くだらないことを一生懸命やったのか？ できるだけカッ「悪いことを、どんな必死な顔をしてやったのがわかるよ。へへへへ笑っていられたのはせいぜい便器に名前書いたぐらいまでだ。そのあとはもう、俺に言わせりゃ「イタい」んだよ。見ちゃいけないんだ。みんな。

一三男 そういづ、難しいことは俺はちょっとわかんないっすけど。

太地 何も難しいことじゃない。死ぬことだって意味がある。そう、——思わせくわよ。

一三男 はい。——いや、めっちゃありますよ。あると思います。

太地 俺にだってそりゃ個人的な経験ってものがあるよ。人生で学んだことがいっぱいある。女の子のブラジャーを外すタイミングとかね。ハハハ、いろいろと勉強してきたことがある——。でもね、たとえば未来の子供たちが今度、そういう場面を迎えるとしてね、何も知らないんだよ。アイツらは！ 何もわかってない。だからアイツらは無神経なことをいっぴいやらかすだろって、爪をばらばら切っけ！ なんていって怒らわれるのかもしれない。だから俺が教えてあげられることも多分、結構あるはずなんだよ。

一三男 そうっすね。

太地 でも、いいんだ。そんなことは教えなくていい。だって、熱くないじゃない？ 教わってやるやつなじゃない。だから、俺の知識もいろいろとあるけどね、全部おじやんに置いていく。リセットだ。それでこそ、未来の子供たちがまたドキドキしながらね、めっちゃ熱い！ つかっていいながら生きていくわけじゃないっすか？

一三男 太地さん、——もう、カメラは大丈夫っす。

一拍。

太地 うん。そうか。

一三男 はい。サーセン。

一拍。

一三男 そんなじゃ俺はじつわじ。

太地 ★一三男くん。

一三男 ——

太地 あんまり、ラーメンとか食べ過ぎないようにね。のちのち、来るもんだから。

一三男 ——はい。

一三男、退場。

太地、一人残る。準備をする。どこかのタイミングでガソリンを浴びる。飲む。

◎■B 「サンゲ」発足のための演説。あるいは、太地の「死」

◆音響：引力のテーパー1

以下、浩二の読んでいる手紙の内容。

太地 人は人を殺せる。これは事実です。

いくらでも殺せます。何人でも殺せます。

人は人を、皆殺しにすることができます。

それは可能です。

でも私たちはここにいます。まだ、死んでいません。

人は人を殺してはいけない、という前提が私たちを生かしてくれているんです。

もう一度よく考えてみましょう。

人は人を殺してはいけないんです。

なぜでしょう？

イノリ 命は尊いものだから、

太地 ではありません。

イノリ 自分がされて嫌なことは他人にもしてはいけないから、

太地 でもありません。

太地 理由を問う必要はありません。そこには、前提がないんです。

たとえば引力というものは人間が「発見」する以前からずっとそこにありました。

大前提です。地面みたいなものです。

人は人を殺してはいけない。

これも私たちの地面です。これが無ければ、私たちの存在もありません。

浩二 (太地の方へ)では、自分を殺すことは許されるでしょうか？

太地 わかりません。

赤羽 ただ、私は自分を殺すことができます。それは可能です。

私は自分自身に対して今日まで、「自分を殺してはいけない」という戒律を課し、その掟を守って生きて来ました。

太地 それも今日で終わりです。

人が人を殺すことは、あつてはならないことです。しかし、それは可能です。

赤羽 私は宗教家ではありません。

夢を語るより現実を語る人間でありたいと思ってきました。ですから私は、私自身を人質にとつて、「人が人を殺したら、私も私を殺す」という脅迫を行おうと思っています。

太地 先日、私の国の軍人が人を殺しました。

彼は軍人としては正しい。社会的にも正しい。

私は彼を止めることが出来ませんでした。

では、正しい人間を止めることはできないのでしょうか？

——できます。

人間を止めるのは、常に暴力です。

彼の暴力に対して、私の暴力を！

彼が誰かを殺すとき、そのことが彼にとって価値ある人間の死と同じ重さになるように。

私は私の暴力をセットします。

イノリ 私は、十字架よりも銃を信じています。

赤羽 僕の考えついたアイディアは決して褒められるものじゃありません。ですが、——もしかするところ、試す価値のある方法なのかもしれない。

太地 もしも、万が一、私のやっていることに可能性を感じる人がいたら、この方法を参考にしてください。

イノリ 散華。

太地 想像して下さる。

兵士が敵を殺そうとするとき、銃口の先に自分の家族がいたのなら？
もしかすると、それでも兵士というものは引き金を引くものなのかもしれません。
正義のために。国家のために。民族のために。家族のために。自由のために！
けれど政府の人間はいつか知ることになるはずですよ。

他国の人間を殺傷することは、自国の人間を殺傷することと等価なのだ、と。

赤羽 命に格差がありません。

太地 捨てるも命と、捨てるはいけない命と。

浩一 「命の格差を是正します」

太地 サンゲは、自らに突きつけた暴力によって、その格差を埋めようとする運動です。
人が人を殺すことを、誰も認めない世界のために。

空虚な喝采。

太地 命を燃やして抗議なんかをしているんじゃない。命を燃やして、誰かと繋がろうとしているだけ。——なあんてね。ハハハ。

場面転換。

◆音響：曲リ 退役軍人のテーマ

◎B 浩一のインタビュー

再び、記者たちに囲まれる浩一。

記者1 退役されたというのには本当ですか？

記者2 どうして急にそんな質問？

記者3 コメントをお願いしますー！

記者4 一言コメントをー！

浩一 これから私は、——軍人の立場では決して発言できないことを発言するために自分の能力を使うことを決断いたしました。

記者たちからびびりめきが上がる。

浩一 軍籍は離れることになりましたが、心はこれからも軍人です。軍人であることと、平和運動に従事することは、私の中では、いささかの矛盾もありません。以上。

記者2 びびりから圧力があつたんですか？

記者5 平和運動っていうのは具体的には？
記者1 お兄さまについてコメントをお願いしますー！
記者3 一言ー！ 一言だけでもお願いしますー！

記者会見の場の解散。

◇音響：曲off 退役軍人のテーマ

◎B 尺三寸半の3

浩一の家の中へ、屋外。

待ち合わせの場所に、ナツが先に待つ姿。そこに浩一がやってくる。

ナツ サンゲの代表になったってホント？

間。

浩一 うん。そうだね。なったよ。

ナツ なにやってんの？

一拍。

ナツ ていつか意味わかんない、もう、頭おかしんじゃないのあんた？

浩一 —まあ、お前はそういっただらうね。理解してもらえないとは思ってないよ。

ナツ そりゃそうでしょ。何を理解するわけ？ 何かあるのそういう理解するような理屈が？

浩一 最初っからそんな風に話したんじゃないよ、さ。さっさと何もしゃべってしまえよ。

ナツ 言わないでいいよ、何せ。やめてよ、今からだよ。

浩一 どうもわけなごうでしょ。

ナツ なに？？？ なんだよ、「やめ」って言うのはごうさん。

浩一 じゃあ、もう、決めてんだ。

ナツ いや、だからさ、なんでそんなことをやんなきゃいけないの？ わかってんの、もう居ないんだよ、ター兄ちゃん？

浩一 わかってるよ。

ナツ なんでもねえ、その家の人間が、次の代表とかをやらなきゃいけないわけ？ そんなローちゃんまで居なくなっちゃったじゃないの？

一拍。

ナツ サンゲをやるまであたし、ローちゃんとなんて絶対会わないから。
浩一 まあ、その方がいいだろうね。

間。

◆音響：曲： 休憩のテーマ

ナツ 良かったね、うるさい妹と会わないで済んで。
間。

ナツ じゃあまた！

場面転換。

休憩。

◇音響：曲： 休憩のテーマ

◆音響：曲： 休憩中の音楽

一拍。

マーサ そりゃ会田は絶対やなごじよ。

ナニ かもね。会田へな優ごじよ。

会田 それは関係ないごじよ。

ジュン なんか、やり方がテロへんなんだよなあ、サンゲ。

ジョー でも、テロだったらら全部悪いってわけじゃなごじよ？

ジュン ええ？

南武 ———いや、悪いんじゃないかな、テロは。

ジュン うん。

ジョー なんて？ 状況によっちはアリにならごじよ。

ナニ エー、でも、——テロはダメなんじゃないの？

ジョー だから何なの？ じゃあ、その本業で殺して金が稼げるなら、命の使い

道としては充分アリのごじよ。

ナニ ぬー。

カオリ あたしはナシだと思います。だって、んな、サンゲみたいなじよをこつたら、この国が弱くなっちゃうだけのやうな気がするよ。

ジョー それは覚悟の問題じゃないの。

ナニ 覚悟？

ジョー 絶対に誰も殺さないって、そういう覚悟を決めちゃえば、そういう言いしてる国をあんたら本当に攻めるんですか？ っつて。それ正気ですか？ っつて、そういうメッセージになるわけじゃない？ サンゲって、そういうシステムが、

ナニ まあ、確かにね。

ジュン っつっちゃねえっつて？

ジュン え、あたしですか？ なたはあたし？

ジュン なんか言いたくないじゃない？

ジュン そんなこと無いですよ。なんもないです。

ジュン その言わぬ。アマンサーマンサー独創性なんだから。

ジュン ええ？

一拍。

ジュン 黙ってるのも独創性なんじゃないっすかー？ (笑)

生徒たち軽く笑う。

ナニ いろいろ、そのその (笑)

ジュン ぬー。なんだ、そのその。言ってるのが、生々残ってるみたいのは、気に入らないよなあ。

三ツツツ ああ、リーダーとどうですか？

ソラ はい。なんか「おめーが先に死ぬよー」って思っちゃうから、あたしは。

南武 激しいな。

三ツツツ 激しいですよ、激しい意見だよ。

南武 はい。

ソラ 自分はずっと安全な立場にいて？ そいつのはなんか違うんじゃないかな、って。

会田 えー、でも、三ツツツ、あ、ちょっとどうですか？

三ツツツ はい、会田へん。

会田 今のその、ソラさんが言ったみたい論理、——責任者が責任とわかっていて考えれば、結局のところで腹を切れたか、指を詰めたか、そうして発想と同根なわけですから、だから逆に責任を取った人の発言権が増してしまっているところもあると思うんですけど。

ハナ (ゆっくりに) なになに？

会田 逆にあの、死んだ人間の発言力が強くなっちゃっているのか。え、それはどうかと思うんですけど。それは結局、自決をすすめていく発想に他ならないわけです。死んだ人間によって生きている人間が縛られるようなことになっていくと思うんです。

マーサ しゃべり方が無理なんだよ会田は。

ジュン じゃあやめろ。

マーサ ちげーし。

南武 (会田) だからあれでしょ？ すべて死ぬとかそういう言ひのが良くなるってことじゃないだよね？

会田 まあ、極端に単純化して言えば。

マーサ ね、ね、無理でしょ？

南武 じゃあ、

ジョー いやでも、結局、大量に人が死なないと何も変わらないってこともあると思うんですよ。人間は。で、サンゲっていつのは一応、ちゃんと死にたい人だけが死んでいくシステムになっているから、これはこれでいいんじゃないかなって思うんですけど。

マーサ ええ、個人の自由ってこと？

ジョー うん。まあ、ぶっちゃけ俺だったら絶対死にたくはないけど、でも、誰かを殺すことになるよりはずっといいんじゃないかなー、って。

ハナ そりゃあそうかもしれないけど——。

マーサ えー、なんかなあ。

ジョー なに？

マーサ 死にたい人なんていなくない？ そんな状況ってどうか、誰かに言わされてるだけかもしれないじゃない？

ハナ そうだよ。

マーサ ホントに本人の意志で死ぬなんて無理だよ。誰だってホントは死にたくないんだから。カオリ いや、それはちょっとは限らないと思うけど——。

ハナ ええ？ なに？

南武 あー、じゃああの、ちょっと、はいー

ミシマ はい。南武くん。あ、南武庄三郎くん。

南武 なんで毎回それやるんですかー。ああ、いや、俺、ちょっと思ったんですけど、むしろこのシステムを世界に広げていくっていうのは、いいですかね？

ミシマ 世界に？

南武 はい。なんかいろんな国にそれぞれサンゲがあるような状況を目指しているって、そうすればなんか、なるべく人が死なないような感じの世界になっていくんじゃないですかね？

カオリ えー、でも、そもそも人を殺しちゃいけないっていらってるのに、自分は殺してもいいっていうのがなんか、矛盾してる気がするんですよ。だって、そんなの全然、個人の自由とかじゃないんじゃないですか？ やっていいことと悪いことがあるっていつか――。

ハナ うん。あたしもなんかやだ。サンゲが無い時より不幸になっちゃう気がする。

南武 不幸かなあ？

ジヨー いいじゃない、それで殺し合いがなくなっていくっていいんじゃないかな？

南武 うん。

と、美耶が拳手をこい、

美耶 あの、先生、

ミシマ あー、はい。美耶ちゃん？

美耶 ちょっと、お手洗いに行っても来てもよろしいでしょうか？

ミシマ ふあー？ さっき休憩したばかりじゃない？ 放流直後から決壊直前ってあんた、どん

だけ溜まりやすいダムなのよ。――あ、失礼。

美耶 なんか気分が悪くなっちゃって。

ミシマ じゃあ、行ってらっしゃい。もう、好きだけ放流してきなさい。

美耶 はい。

南武 (拳手して) あ、じゃあ僕、付き添いで。

ミシマ ああ、南武くん？ んー。

ソラ (拳手して) あたし行きます。

ミシマ あ、そっか？

南武 いや、いいよ僕が行くから。

ソラ ★バーカ、男が行ってどうすんだよ？ トイレ手伝ってやんのかよ？

南武 ああ。

ソラ 行こう。

美耶 すみません。

ソラ、美耶、席を立ちトイレに向かおうとする。

テン ソラちゃん。

ソラ ん、どうかした？ テンちゃん？

テン 早く帰って来てね。

ソラ まあ、この子次第だと思うけど。わかったわかった。

ソラ、美耶、退場。

◆音響：曲「先生と議長のテーマ」

ミシマ なに、「議長」はソラちゃんと知り合い？ お友達なの？

テン いえ、それ以上の関係です。

ミシマ (笑) ちよつとちよつと、ダメダメネタは、あわ？ 違うの？ 外したこれ？ 先生外してんの？

テン 事実上の議長は私ではな、へ、ソラちゃんです。

ミシマ 「議長の言ってること、ちよつとレベル高い。先生もあの、時間取ってやりましょっ？ きないから。ま、そういう獨創性はあつて？ 別枠で？ あの、時間取ってやりましょっ？ テン それでは議事を続けます。

ミシマ 無視かーい！ まあ、いっせ。むっ、いっせ。そん、や、あ、い。

再び、会議が始まる。

ハナ なんか話ひっくり返しちゃうのでアしなただけ、

ジュン うん。なに？

ハナ あー、「サンゲ」ってそもそも「物語」の中のお話でしょ？ それって、今のあたしたちに関係あるの？

ジョー いや、十分あるんじゃない？

カオリ どうして？

ジョー だってこれは、この国が「怒り」を捨てる「物語」でしょ？ そいつですよ。議長？

カオリ えー？ どうなんですか？ 先生？

ジョー 議長！

カオリ 先生！

ジョー 議長！

カオリ 先生！

場面転換の動きが始まる。

ミシマ それじゃあ、討論がある程度進んできたところでサンゲの「物語」の続きを見ていきたいと思います。みんな、いろいろ意見がありがとね。で、その後のサンゲなんですが、これはもうほとんど大きくなってしまっただけ、——大きくなっただけ、少し違いますかね。いろんな国に、サンゲという発想、サンゲという方法が拡散していったことになったんです。そして、結成から何年か経

つとこの国のサンゲは、もう誰も無視できないような集団となって、社会から認められることになったんです。次々に、組織のメンバーを増やしながらい、です——。

◆音響：曲ヨ 樹海のテーマ

◇音響:曲 out 樹海のテーマ

▽音響:SE 森の音

樹海。

女(阿南寧々)がいる。

少し離れて、それを見ている二人の男(馬場三男、朝桐正蔵)がいる。

一三三男 あの一、

寧々 わあっ。

一三三男 もしかして迷っていますか？

寧々、答えない。

一三三男 いや、お姉さんさっきからずっとウロウロしているから、もしかして、とか思ったんですけど——。それともあれですか、迷ったために、いらしたんですか？

寧々 別に。

一三三男 「別に」。そっすか。

一三三男、正蔵、お互いを見る。

一三三男 お姉さんはあの、遭難とか、を希望なさっている——。

寧々 違います、そんな。

一三三男 あー、大丈夫ですよ全然、俺ら止めたりとかするつもりまったく無いんですけど、むしろさういうのじゃなかったら残念だなあ、へーこのテンションなぞで、

寧々 え、なんですか？

一三三男 あ、えーとですね、俺らあの、求人をしてまして、あ、あの、いうふう、ヤジなとですけどね、

正蔵、手にしている鞆から何やらペンフレットのやつなものを取り出して「三三男は違います。

寧々は片手で受け取る。

正蔵 あの、「散華」って何知ですか？ それであの「サンゲ」って読むんですけど、散る華で、改めまして、フタクシにしようものなぞですけれど、

寧々 はあ。

一三三男 あ、自分も、ハイ、いい。

正蔵、二三男、両手で丁寧の名刺を渡す。
女、それを片手で受け取って、

寧々 ええと、朝桐、正蔵さん、と——、
馬場 馬場二三男です。

正蔵 あの、今ってお時間ちょっとだけよろしくですかね？ お忙しい、ですかね？
寧々 いや、別に忙しいは——。

二三男 ですよね？ 誰もそんな、樹海に用事ないですもんね。

二三男、正蔵、笑う。寧々は笑わない。

寧々 ええっと、なんですか？ 用件はいつか——。

二三男 あ、優しいですね、そうやって聞かされたわって。

正蔵 ね。

二三男 大丈夫ですか？ お姉さんの俺ら「憎悪を込めて」虫じもが「って感じになってないですか？

寧々 や、なってるんですけど。

正蔵 おーっ！

二三男 あざーす！ やさしいですねお姉さん！ (正蔵に) そんなじゃ、俺から話すからお前ち
っこ見とけ。

正蔵 ええ、なんですか？

二三男 新人がしゃしゃってんじゃないよ。

正蔵 えー？

二三男 お前、会長の弟だからって調子ロクでなじゃねえぞ。

正蔵 関係ないじゃないですか、そんなの。

二三男 (寧々に) えーとですね、うちら「サンゲ」って言って平和のために体張ってる団体な
こひまけな。

寧々 ハイハイ。

二三男 知ってます？ わかりますかね、サンゲ？

寧々 まあ、なんとなく。

二三男 おお、知名度バリ上がってるな。

正蔵 おういっすね。

二三男 だったら話甲斐いってあげて、まあ、普通、平和運動とかして「平和」か「平和」かやめるじゃ
ないですか？ うちら「平和」の「切やな」を「平和」に「自決」する——ヤババく
ないですか？

寧々 ヤババ、いっすねちやっど。

一三男 でも一番迫力あんのってそれじゃないですか？ うちら結果を重視する団体なんで、ハ
ンストやるんだったらマジで餓死するところまでやんぞ、みたいな。ヤバくないっすか？

寧々 や、もうヤバいのはわかったんですけど、え、ちょっとあの、前から疑問に思ってたこと
があるんですけど。

一三男 はい、はい、

正蔵 なんでしよう？

寧々 自分の国の軍隊が、んーと、外国で？ なんか人を殺しちゃったらあの、抗議をするわけ
ですよわね？

一三男 そうっすそうっす。他国の犠牲者とおなじ人数のサンゲが自決するっていつ。

寧々 え、じゃあもしも、なんでっすけど、

正蔵 はい。

寧々 もしも、この国が核爆弾とかを落としちゃったら、どうなるんですか？

舞台上でインリが何か大きな音を立てる。

一三男 まあ、理論上は——。

正蔵 それと同じ数を。

寧々 そう、なんですか。

正蔵 いや、まあ、ありえないですけどね、そんなじつは。

一三男 でもまあ、理論上としてはそういうことになってますんで、まあ、なんていうんですか、
あれですよ。命がいくつあっても足りない感じなんですよ。

寧々 ああ、それで私を——。

一三男、正蔵、笑う。

一三男 もしあの、お姉さんがサンゲに入ってくださったらなんかすっげえ助かるなあ、って感

じなんですけど、俺が。

寧々 「俺が」？

一三男 はい。

寧々 あたしが死ぬと、「俺が」助かるんですか？

一三男 いや、そういう言い方するとなんか、すっげえ人間き悪いじゃないですか？

寧々 ★自分で言ったんじゃないですか。——

一三男 やーね、だって今、春じゃないですか？

寧々 春？

一三男 はい。やっぱり春は新人の季節っていうか勧誘とかしないといけないうわ、だからこの時
期に入っていただけとめっちゃありがたいんすよ。

寧々 完璧にそっちサイドの都合じゃないですか。

一三男 サーセン。

一三三男　でもー。でもあの、俺がめっちゃ助かります。いや、別にノルマとか無いんですけど、

なんじつかに、じつじつ時期に誰も引っぱって来ないとコミュニケーション力コミュニケーション力無い奴認定されちゃうってことか、

正蔵　そうそうそう。

一三三男　あー、あとこれ、すっぱえ大事なんですけど、世界がちよっと平和になります。

正蔵　どうですか？

一拍。

一三三男　どの辺が引つかかっていますか？

寧々　結構あちこち引つかかりまくっているんですけど――。

一三三男　やっぱり金銭面ですか？

寧々　金銭の話してないですよね？ あ、お金もらえるんですか？

一三三男　いや、あの、新人の方はまだ払わなくてもいいんですけど、

寧々　え、払うんですか？ あたしサイドが、払うサイド？

一三三男　そー、っすね。払うサイドっす。

寧々　ああ――。

一三三男　サーセン。

寧々　え、これ、自分から入る人っているんですか？

一三三男　「じつ、まれに。あ、このじつが。」

正蔵　あ、はい。

寧々　あ、そうですか。フッフ。

一三三男　なんかお姉さん笑うとかかわいいですね。

寧々　いやいやいや、

正蔵　もしよろしかったらもうちょっとだけ、あの、ね？ 場所移してめっへんお話とかをせいでいいから、
くだらなく、

一三三男　事務所いってあの、「ロリ」とかありますけど、あの、「ロリ」もあのまじかえ。

寧々　ああ、「ロリ」。

一三三男　どうですか？

寧々　なんかじゃあ、少い。

一三三男　やった。まあ、「ロリ」好きなんですわね、やっほ。

寧々　や、別に好きじゃなくですけど。

一三三男　★「ロリ」すげえなやっほ。

正蔵　最後は「ロリ」すわなえ。

寧々　いや、だかば、

一三三男　「ロリ」すわなえ。

と、遠巻きに見ていた羽田が近づいて来ており、一三男と正蔵がそわそわしている。

羽田 そんなじゃ、あと俺がやつてくからさ。お前ら、ここ残って続けてなよ。
一三男 あ、え？ マジですか？ えー、よせ。

羽田 ちゃんとファミオの扱いにしようかな。

一三男 うえっ？ ありがとうございます。

羽田 おう。

一三男 あ、うーわ、じゃあ俺、すげえがんばります。

正蔵 がんばれがんばれ。

一三男 バカ、お前もだよ。

一三男、正蔵、退場。

羽田 (寧々) それじゃあの、向うに車停めてありますよ。

寧々 あ、はい。

羽田、寧々、移動する。

場面転換。

▽音響：SE 森の音out

◎B 求人 事務所 1

サンゲの事務所。

寧々が、井戸田とみのりに案内をされている。羽田は後ろからうしろ向き。

みのり いやー、でもあなたホントに運がいいよ。こんな、求人活動とかする人じゃないんだか
ら普段は。

井戸田 組織の大幹部ですからね。

寧々 そうなんですか。じゃあ、今日はたまたま？

みのり そうそう。

井戸田 ラッキーでしたね。(椅子をすすめて) じいじ。

寧々 ああ……。部屋の周囲を見渡して(なんだか、殺風景なところですね。

井戸田 え？ ああ、いいじゃないか？

みのり ああ。

一拍。

みのり そうかもね。

羽田 あんまり無駄なもの置かないようにしていいですよ。
井戸田 いつでも夜逃げ出来るように。

羽田、みのり、井戸田、笑う。寧々は笑わない。

羽田 あー、そうそう、僕、営業マンやってたんですよ。この仕事やる前は。
井戸田 一流の証券マンだったんですよ。
寧々 へえ。

羽田 まあ、勤めてる会社は一流でしたけど、結局、クビになっちゃってますね。なんだか、でっかい賭けが好きだったんですよ。だから顧客にもリスクの高いポートフォリオばかり組ませてる。そしたら、「あんたに騙されたー」なんていじりごとが多くなってきちゃってます。「お前が決断したんだろ」「って思うんですけどねえ。」

みのり 羽田さん、それじゃ、私たちは――。

羽田 ああ、本部？

井戸田 いえ、ちょっと税務署に。

みのり あたしはオマケで。

羽田 じゃ苦勞さん。

みのり そんじゃ失礼します。

井戸田 失礼致します。

羽田 はい。

みのり、井戸田、退場。

◎ B 求人 事務所 2

羽田 実はあのオ、阿南さんについていろいろお願いがあるんですよ。
寧々 はい。なにかしてあげよう？

一拍。

羽田 サングを潰してくださいませんか？ 僕と一緒に。

寧々 えーとあの、――サングって羽田さんの所属している団体、ですよね？

羽田 そうですよ。この団体。

寧々 潰しちゃうんですか？

羽田 だって潰れた方がいいと思いませんか？ こんな集団？

寧々 お辞めにならなくていいですか？

羽田 まさか。辞めませんよ。辞めれません。

寧々 ―――言っている意味がちょっと。

羽田 いや、組織ってのは不思議なもんでしてね。外から壊そうと思ってもなかなか壊せるものじゃ無いんです。ホラ、外敵を見つけたとすっごくいい結束力を発揮するでしょう？ ギューッとして。だから組織を壊すには、内側から蝕くさたほうがいいのが一番いいんです。

寧々 ——羽田さんは、何を考えてるんだか分からない人ですね。

羽田 ハハハ。阿南あなみさんにはだけは言われたくない。

一拍。

羽田 あなたのご家族で自殺なさった方いますよね？ サンゲの、抗議活動で。

寧々 ああ——。

羽田 しかも、本当のところはご本人の意志じゃない。サンゲの都合わせて自殺を強要された、ってパターンだ。言ってみりゃ、うちが殺したようなもんでしょ。違います？

寧々 まあ、本人がどう思ったかは、わからないですけど——。

羽田 あなたを誘ったのはたまたまじゃないんです。待たせてたんですよ、阿南さんのこと。
寧々 え、それはどういう——？

一拍。

羽田 あなたのお父さんは大きな借金を抱えてらした。それで結果として、自分の娘さんをまあ、とてもいい給料で働かせることになってしまった。——絵に描いたような古臭いパターンだ(笑) 阿南さんもきつとね、少なへとも一回ハッパらしいは弁護士を雇ませて金融のやつらと交渉するべきだったんですよ。「法定金利を上回っている」とかなんとか適当なことを言って？ 多少「ネてお

くだけでも、その後のエスカレートは防げたのかもしれない。

寧々 お詳しいんですね。

羽田 やあ、全然。聞きかじりの知識ですよ。

一拍。

羽田 ダメなんですよね、一回、好奇心持ちちゃうと、もうね。好奇心てのは美に厄介です。とても単純で、だから、とても強い。空気を読まないんですよ、こいつは。

寧々 好奇心で、あたしにどうですか？

羽田 たまたま田に入ったんですよ、最初は。やあ、組織が大きくなってきてあちこち顔が効くようになりましてね。ホラ、阿南さん何度か病院に運ばれてらっしゃるでしょう？ 事故とか病気がない埋田じい。

寧々 ええ、まあ。

まともに生きるためのチャンスがまったく無かったんだ。どうしようもなかったんですけどよね、阿南さんには？

寧々 あの、具体的には、

羽田 はい。

寧々 あたしは何をお願いされるんですか？ 何かお願いがあるっておっしゃってませんでし
たっけ？

羽田 言いましたね。

寧々 ★はい。何でしよう？

羽田 できればその、

寧々 ★はい。

羽田 ——死んでいただきたいんです。

寧々 それじゃサンゲと一緒にじゃないですか？

羽田 いいえ、違います。サンゲを解散させるために死んでいただきたいんです。いいですか、阿南さん？ 人間を止めるのは常に暴力です。だから、サンゲと同じ方法でサンゲに対抗してやるんですよ。サンゲの活動に抗議して消えていく命、サンゲの消滅のために使われる命、そういう命が多くなっていけばサンゲを支えている論理もそう長くは持たないはずだ。

寧々 どういう意味ですか、それっ！

羽田 ★命をかけて抗議するんです、サンゲを解散してくれっ！って。無視はできないはずですよ。それを無視できるんだったらサンゲの抗議活動だって同じように無視されてしまうんだ。命に格差が無いのなら、サンゲの解散のために使われる命もまた等価でなければ——。同等の力を持つているべきなんです。

寧々 ちょ、ちょっと待ってください。そんないっへんにいろいろ言われてもあたし——。

羽田 理解していただくのほのちのちで結構です。何も言わず、へっ！って話じゃあない。だからまあとりあえず阿南さんは僕の秘書っ！ってことにしても一緒に一緒に——働いてっ！ いろいろみんなと和んだりしていいんですよ。時が来ればまた、僕の方から指示を出していきますんで。

目蓮、浩二、赤羽、みのり、カナエ、登場。事務所に帰って来たのだ。

目蓮 来客中、かな？

羽田 あー、はいはいはい。おかえんなさい。

みのり そいどばかりたりみんなと会っ！

浩二 (寧々) (へっ！) (せっ！)。

寧々 ああ。

浩二 もう始めますんで、羽田さんも——。

◆音響：曲「好奇心のテーマ」

目蓮、浩二、赤羽、みのり、カナエ、そのまま、通りすぎて舞台奥へ退場する。

羽田、席を立ち、目蓮に続いて舞台奥へ退場しよっ！とすよっ！

が、振り返って、再び寧々に話しかける。

羽田 死んじゃダメですよ。阿南さん。今はまだ死んじゃダメだ。

一拍。

羽田 死ぬ気になりゃなんだって出来るわけですから。それは、あなたが一番わかっているんじゃないですか？

一拍。

羽田 正直困ってますよ、僕も。本当に。

舞台の奥から田蓮の声が聞こえる。

田蓮の声 羽田ー。ちょっといいかー？

羽田 あー、はいはい。ちょっと待って。(寧々に)わかっています。今日会ったばかりの人に言うことじゃない、それはわかっているんですけどねー。あなたもきつと、サンゲに人生を狂わされてしまった人だ。僕も、同じです。

一拍。

寧々 ダメな人ですね。羽田さんって。

羽田 聞いてくださいませんか？ダメな男の頼みじつは。
寧々 ビジビジおじ。

一拍。

羽田 あなたが「どっしりしてもいます」っていつんだったら、僕はもう、引き止める言葉は何も無いんですけどね。出来れば、検討していただけると助かります。

浩二の声 羽田さんー！

羽田 ああ、いま、行きます。(寧々に)すみませんね、なんだか騒がしくて。

寧々 どっしりして私が、——しつこく思ってたんですか？

羽田 じいじい？

寧々 はい。そんなに全部、いろいろ知ってるんだったら、どっしりあたしがサンゲの事務所になんか来ると思ったんですか？

羽田 ——好奇心、じゃないですかね？ あなたの。

さりげなへっぴろを置いていたら絶対笑うんだけどな。
場面転換。

◎ B モニコメント「祈り」

サンゲの事務所。奥の部屋。

目蓮、浩二、みのり、赤羽、カナエがいる。

そこへ羽田、登場。

羽田 すみません、遅くなりまして。

みのり 遅いよホントに。

赤羽 僕らだけで今、進めたところですよ。

羽田 ハイハイハイ、

浩二 こないだのほら、モニコメント「祈り」の建設中について、

羽田 あー、モニコメント「祈り」、あー、あー、なんとか平和公園に作るって言ってたんですけど、
ね？

みのり そっすり。

羽田 資金はもう大丈夫なんですか？

浩二 集まりすぎるとべらべらい集まっちゃいますよ。

目蓮 数十倍はいつてんじゃないか？ 建設費用の。

浩二 そっすりです。

羽田 へー？ さすが金持ちは金儲けがうまい。

目蓮 いやいや。

浩二 ま、こっつ立って続けに殺し合いのニュースが続くとね。

みのり 募金べらいはしてみつかって気分になんじゃないの、みんな。

目蓮 集金目的としちゃ上々だよ。

赤羽 それで、デザイン画のチェックを羽田さんにも一応、と思いついて。

羽田 ハイハイハイ。

赤羽、羽田にデザイン紙を渡す。

羽田、それを見て、

羽田 まー、いい感じじゃないですか、こんな感じでは？

みのり ハハハ。

カナエ すーい、（予想していた発言と）完全に一致じゃないですか？

みのり （真似して）「まー、いい感じじゃないですか、こんな感じでは？」

目蓮 興味ねえんだよねっすり。

みのり おつかれさんっ！

カナエ お疲れ様です。

目蓮 うー。

浩一、退場しかける。

羽田 あー、浩一さん、

浩一 はい。

羽田 さっきあの、樹海のあれ、キャッチ、行って来たんですけどね。

浩一 ええ。

羽田 がんばってましたよ。弟さん。

浩一 ——別にいいですよ。わざわざなんかないよ。

浩一、退場。

場面転換。

朝桐ナツと正蔵の家。

ナツ、正蔵、太地（赤ちゃん）がいる。

このシーンの最中で、だんだんと赤ちゃんが増えていく。

以後、しばらく舞台上には大量の赤ちゃんが存在し続ける。

◇音響:曲out キャッチのテーマ

ナツ もうなんであたしの周りの男はこういうバカばかり揃ってるんだろう。あーもう、本当
にやんなっちゃう。本当やだ。本当やだ。本当やだ。

正蔵 でも、そういう方法もありじゃないかなって、思っちゃったんだよ。

ナツ あたしはどうなっちゃうわけ？ —あなたが居なくなっちゃったら？

正蔵 別にそうなるって決まったわけじゃないんだから。

ナツ ★そりゃそりゃしてあげようよ。でも「サンゲ」に入るとしては、ハイゼって時にほら、いろいろ

とになるかもしれないって、違いの？

正蔵 違うよ。そうだよ。

ナツ うん。うん。ほ？

正蔵 え？

ナツ だったらそういうことほさ、やめようよ。子供いるんだよあんた、わかってんでしょ？

正蔵 わかってるよ。うん。

赤ちゃん太地、泣く。

太地 びええええええええ。

ナツ あー、よしよし。ごめんね？ うるさかったねえ？

太地 えええええ——ハハハハ、ハハハハハハハ！

ナツ はいはいはい、ねえ、——もう何がおかしいんだか全然わかんない。あー、もう何、寝ち

ゃうの？ —あ、そうなんだ。もう全然わかんない、全然タイミングがわかんないねえ。——

困ったねえ。

赤ちゃん太地、寝る。

正蔵 俺も、悪いとは思ってるとは言え。

ナツ ★だったらやめねば？ なんてそういう無責任なことが言えるの、気持ち悪い。もう、な
んていうか、前から思ってたけど、べ、なんか、「サンゲ」とか、「ほあっ？」「感じて。もう気持ち
悪い。気持ち悪いとわかんない？

正蔵 うーん。そう言われてもね。

ナツ ★ちよっとヤダヤダヤダ。やめてホント。ね？ あたしイヤだからねホント。なんか平和のためとかなんとか言っちゃってるけど、みんなの全然平和じゃないし。あたしにとっては全然、もう最悪だよ。地獄だよ。

正蔵 まあ、今、ナツに言っても、冷静に聞くのは難しいと思うんだけどね。

ナツ ★難しー！

正蔵 聞いて。ねえ。聞いて！？

ナツ 嫌だよ。おかしいよ、もうー！

◆音響：曲「赤ちゃんのテーマ」

赤ちゃん太地、爆笑。からの咳き込み、就寝。

太地 あ——はっはっはっはっは！ オホ、オホ、ウオッホ、うおおあああ——。

ナツはそれをあやしている。

正蔵 あのね、うーん、なんか、世界全体が平和になるまでは？ そういうだから、小さい単位での平和っていうのは達成できないんじゃないかなあと思ってて。

ナツ できませんけど？

正蔵 だってその、うん。どっかではね、誰かがまだ傷ついたり血を流したりして、まだまだ苦しい思いをいつぱいしているのにな、それなのに自分たちだけがその、被害がないからっていつて知らんぷりを出来るのかって聞いて、

ナツ 出来るよ。出来る。

正蔵 まあね。実際そういう人はいると思うんだけどたくさん、でもね、

ナツ ★いや、いいんだってそれ。いいんだよ！ 全然オツケーだから。

正蔵 うーん（笑）

ナツ たとえばね、自分の隣で銃で撃たれて倒れてる人がいたってさ、知らない。じゃめん悪いけど。隣の人は撃たれてもいいけど、あなたは撃たれないで。これおかしー！ じつじつ考え方の人はダメなの？

正蔵 いや、ダメじゃないけど、

ナツ あんたが居なくなっちゃったら太地はどうなるの？ おかしいでしょ？ ねえ。

間。

ナツ 聞いてくれないじゃな。

正蔵 やあ、まあ、そんな、最悪の結果が出るとは限らないわけでしょ？

ナツ 出るよー！ 出たことあるよ。最悪だよホント。いつも最悪。

ソラ もしも、あたしの部屋のドアを開けたら、「おはよう」「っていう挨拶が「キル・ユー」って意味になるような、そういう国になってしまっていたら、どうしよう？

テン もしも、

イノリ・美耶 もしも。

ソラ もしも、これが真新しい一日の始まりなんかじゃなくて、古臭い悪夢の続きだったら、どうしよう？

一拍。

ソラ それでもあたしは目を覚ます。

テン ——かな？

ソラ おはよう。ごや。

人々、移動する。

◇音響：曲out

ソラ あたしはまだ、目を覚ましたことなんて無いのかもしれない——。ずっとずっと、覚めなご夢の中で、その中でも、それが夢だと気づけなご。

◆音響：曲in alike

イノリが何やら楽しげに踊っている。そこへ、

イノリ おーごおーごー！ おーごおーごー！

南武、美耶がいる。

カラスの急襲。

南武 うおおっ。危なっ。

カラスは美耶のもとへ集い、とまといる。

南武 大丈夫、美耶ちゃん？ お返しだよ、こないだのカラスがお返しにきたんだよ。

美耶 残念だけど南武君、お別れしましょう。

南武 ええ？ お別れ？ どうして？

美耶 フフ。急に付き合っつって言った時には、どうして、なんて聞かなかったのに。

南武 それはだって、——そりゃ、そうかもしれないけど、

美耶 別に南武くんが悪いわけじゃないんだよ。

南武 あーれー？ これなんか絶対俺が悪いパターンじゃない？ ええー、言ってよ。なんか悪いところがあったんなら全部直すし、

美耶 あたしそろそろ帰らなくちゃいけないの。

南武 帰るって、どうして？

美耶 どこか遠くの、田の向かいだよ。

南武 なにそれ？ どうしてどう？ あ、冗談？ 転校生ストーリーみたいにもたまたま冗談なんですよ？

美耶 冗談じゃないの。だからごめんね。

南武 うそだろー。

打ちひしがれる南武。赤ちゃんたちが泣き始める。

美耶、ソラに近づいて、田が合図。

ソラ 泣いちゃったね、みんな。

美耶 うん。そうだね。みんな泣いちゃった。

一拍。

美耶 あたし、どうしたらいいのかなあ？ どうしたらいいと思う、ソラちゃん？

ソラ え、あたし？ なんてあたし？

美耶 もうお別れだから。

ソラ そうなの？ また転校していつちやうの？

美耶 ううん。ソラちゃん、もうすずへ田を算ますでしょ？ そしたらこの夢もおしまいだよ。

ソラ 今、眠っているの、あたし？

美耶 だからもう、泣かないよ。

ソラ いや、泣いてないよ。あたしが？ なんで泣くの？ 全然、泣いてないよ。

美耶 そう？ じゃあ、ごめん。

ソラ え、美耶ちゃんだって泣いてないじゃない？ なんで？ どうして泣くの？

美耶 流す涙が足りなくなっただわあ。

ソラ 教えてよ。泣くような何かがあるわけね？ あたしにも教えて！

美耶 わかんないよね、あたしのことなんて。あたしもソラちゃんのことなんてわかんない。――仕方ないよね。

イノリ、何処かへ向かって手を振りながら、

イノリ おーい、おーい！ おーい、おーい、おーい！

美耶、ソラから少し離れ、振り返って小さく手を振る。

美耶 じゃあ。
ソラ 帰らなごい。
美耶 ——なぜ？
ソラ あんたが帰ってしまったら、悲しいから。

一拍。

ソラ 仲良へごめい。

一拍。

ソラ ねえ、仲良へごめい！… 仲良へごめい！…
美耶 見てね。
ソラ は？ 何を？ 何を見ていねばごい？
美耶 月の剥がれる夜の前には、お母のお月様も黄色くなるよ。
ソラ ねえ、仲良へごめい！… だからさあ、お願いだよ！… どうか死なないで！
テン ごめいごめい！
学生たち複数 ごめいごめい！…

場面転換。

通学の場が「殺し合」の情景へと変化した。

◎ ■ A 30の回 | 11 | 戦争が始まる | 2

ソラ、寝てごい。

ナミ ソラちゃん！… ソラちゃん！
ソラ え、ええ？ ああ。
ナミ 先生。起きました。
ミシマ はい。ありがごい。ソラちゃんもあな、ナミちゃんに起いねごい。ごめいごめい。
ソラ ぶっごい意味ですか！
ミシマ 要領はっかりいいんだから、ナミちゃんは。
ナミ うー。

生徒たち、笑う。

ソウ あれ？ 美耶ちゃん、ミシマ先生、美耶ちゃんはあの——？

ミシマ 美耶ちゃん？ 寝ぼけてるの、ソウちゃん？

南武 夢の回ソウのお友達かー？

生徒たち、笑う。

ソウ いやいやいや、南武——。

ミシマ それじゃナミちゃん、教科書の83やみページの続きから、読んでもらえるっ。

ナミ はい。八十三ページですわね。

ナミ、ソウ、そして生徒たち、教科書を読む。

◆音響：曲「ヨロヨロのニーマ」

ナミ 「山の回ソウのどこの国で、また、殺し合いが始まって、大勢の犠牲者が出ました。殺し合いが進むにつれて、世界中にいる大勢のサンゲのメンバーたちも命を散らすことになりました」

ソウ 「そいつは、この国では、考えられる限り最悪の出来事が起こりました」

ナミ 「この国は、信じられないほど多くの他の国の人を、いっせんに殺すことになってしまったのです。ソウソウ、サンゲによって構築された世界の安全保障体制にも、ひとつの終焉が訪れることになったのです」

ミシマ はい、ソウもありがとうございます。——さて。いよいよこのあとにサンゲの「物語」も大きな転機を迎えることになるわけですが、みんな知ってるかな？ あー、会田くんは黙ってて。

会田 なんですかー！

ナミ 知ってますー！ いわゆる「大抗議」ってやつですね？

ミシマ 優秀、さすが優秀、ナミちゃん。

ナミ へへへ。

ミシマ それじゃあその「大抗議」について、みんなで見てもいいんじゃないか。

場面転換。

【5】 徹底抗戦

【第一次散華テロの発動とその失敗】

◎■B 解散式／羽田充

◇音響：曲out 山の向い側のテーマ

浩二、羽田、目蓮、フミオ、寧々、但馬、みのり、井戸田、赤羽、カナエ、正蔵、そして、佐渡島がいる。佐渡島はカメラをセットしている。

羽田 よろしいですか、準備は？

佐渡島 はい。もう回りますんでいいです。

羽田 あー、したらまず、佐渡島さんにお引き取り願おうかな。

佐渡島 え？ ああ。——ですよ、すみません。じゃあ、どっかの辺を、びびりびびりしていますんで。（他のメンバーに）あとで個人個人のインタビューもしますんで、協力お願いします。

佐渡島、退場。

羽田 えー、本日はね、「中津川サンゲ・ジャンボリー、パート2」と題しましてですね、まあ、簡単なサンゲの解散式とごつごつとお集まりいただきました。わざわざお忙しい中、ありがとうございます。

羽田、参加者に向かって一礼する。
間。

目蓮 いよいよサンゲも解散が。

正蔵 消滅、って言った方がいいんじゃないですか。

赤羽 誰も生き残れないでしょうからね。

浩二 まあ、すべてのサンゲ・メンバーがいつか「散」たって足りやしないんだからね。

赤羽 ええ。

二三男 命がいくつあっても、って感じっすね。

一拍。

目蓮 結構好きだったんだけどなあ、サンゲ。だっていいのは、「しんげもついで」って投げやりになつて使えるねクスス、何かが何でもやっつて「うっうっ最強に使えるクススが同時に居るんだもんな。

みのり そーんないもんでも無かった気がするけど(笑)

目蓮 でも、サンゲの会員でいるってことはあれだろ? 「ちゃんと意味のある時までには絶対に死なねえ」ってことなんだからな。

みのり まあねえ。

目蓮 だからあれだよ、「サンゲ」で一番ダセエのは、何の意味もない時に個人的に死んじまう奴な。そついう奴の葬式とかはみんなで唾吐くべらいのテンションだったからな。葬式だつていうのに(笑)

カナエ あと、抽選で当たったくせに日和ってやめちゃう人とかねー。

目蓮 そうそう! あんなのがいるせいで人権派みたいなやつが「自殺の強要だ!」とかつて言つて騒ぎ出してきてな。

但馬 結局まあ、「死にたい」なんつって△△△△入ってきた連中は逝けないんじゃないですか。

みのり まま目蓮をたて逝けなごつだよねー、なんとなへ。

一拍。

目蓮 あ? なんだお前? どういう意味だよ。

みのり まあ、一体この中で何人ちゃんと逝けるのか。

寧々 今まで散々逃げてきたわけだもんなね。

一拍。

目蓮 なんだあ? なに言い出しやがるんだよ、急に。

羽田 ★辞めたっていいんですよ、別に。——あくまでも「抗議活動」は個人の責任ですから。

二三男 なんすかなんすか、羽田さあんな?

目蓮 おいおい、俺たちが「いびいびいびいびい」って辞めちゃったら、どうなるんだよ? むしろ、どういつのための「サンゲ」だろ?

羽田 そりゃそつです。僕だつてまさか命が惜しくて「サンゲ」なんてやってたわけじゃありませんからな、もちろんだ、最後の一人まで散華は美しく散ると信じてますよ。しかしまあ、——最後はあくまでも「個人」なわけですから。

浩一 フフ、羽田さんも苦労が耐えないねえ。

羽田 何がですか?

浩一 ちやいや。

寧々 「何が彼を狂わせたのかあ?」(笑)

一拍。

羽田、急に雄叫びをあげてる。

羽田 まあ、もう、解散。

間。

羽田 どうぞお好みのタイミングで、お引取り下さい。

カナエ え？ あの――。

目蓮 いいんですか？ 浩二さん。

浩二 実際、そうするしか無いんじゃないですか？ あとはそれぞれがそれぞれの判断で。

間。

赤羽、立つ。

続いて、カナエ、立つ。

赤羽 長いよう、ありがとうございます

カナエ お世話になりました。

羽田 ★もうカタッ苦しいのはナシにしましょうよ、そんな。

続いて、フミオ、但馬、正蔵、みのりが立ち、去っていく。

一間おついで、目蓮が立ちし。

目蓮 あーあ、と。

目蓮、退場。

羽田 ――なあんか、思ったことと違っただよなあ、って。

浩二 はい？

羽田 いつも思ってたんですよ。学校でも会社でも、あー、サンゲもだ。なあんか違っただよなあ、って。

一拍。

羽田 まだいるんですかねえ、こんな方法で殺し合いを止めれると思ってるバカが。

浩二 でも、羽田さんだって「散る」んでしょ？

羽田 そりゃあね。大バカ野郎の大親分ですから。

寧々 よっ、親分！(笑)

間。

寧々も立ち上がり、帰るひびき。

羽田 阿南さんもあの、すみませんでしたね。

寧々 ん？

羽田 いつかの、あの、話なんですけど、

寧々 ああ……。」どうにも間に合いませんでしたあ」(笑)

羽田 ま、ある意味、サンゲはもう、消滅ですから。

寧々、去る。はけきるのを待たず、

羽田 井戸田さん。

井戸田 はい。

羽田 いろいろ、あと、頼みます。なんとも、大雑把な任せ方で申し訳ありませんが――。

井戸田 はい。いつも通り。モニュメント」祈り」に関しても建設中止の方向で動いてみます。

羽田 すみません。

井戸田 いえ。

羽田、井戸田に一礼。

井戸田、立ち上がり、去る。

浩二は座ったまま、

浩二 お世話になりました、ね。

羽田、地べたに座る。

羽田 浩二さんは、人を裏切る時の気持ちってのが、どんなだか知ってました？

浩二 知るわけ無いじゃないですか。

羽田 自分を信じてる人間が、次々散っていくのを見るのがどんな気持ちか、想像、ついてました？

一拍。

羽田 僕も驚きました。太地さんが死ぬまでは、そんなもんへっっちゃらだと思ってたんですけどね。そんなことでグングングンするような人間じゃない、と思ってたんですよ。――大間違いでした。

一拍。

羽田 誰かがいつか、怒ってへんねのを待ってたのかもしれないな。

◆音響：曲「お世話になりました大人ですからのテーマ？」

浩一、立ちあがる。

浩一 誰も怒ってへれませぬよ。そんな、面倒へせうじや。

浩一、一礼して去る。羽田、一人残る。

羽田 ま、大人ですからね。

羽田、立ち上がり、カメラを片づけて去る。

舞台上、無人。

場面転換。

◎■B 馬場三男／阿南寧々

フミオの家。サンゲ事務所よりもうちよっとプライベートなどが。

寧々とフミオが居る。

寧々 逃げるのが正しい時もある♪ 戦えないのが正しい時もある♪ ゆけー、ニンゲーン、
どもたちイーどもー♪

一三男 なんすかそれ？ 誰の歌っすか？

寧々 ん？ 作ったの。今自分で。

一三男 やっぱ怖いんすか？

寧々 知らない。わかんないよそんなの。

一三男 でも、未遂とかだったらしたことあるんすよね？

寧々 んー、お酒とかガブガブ飲んでやったから。

一三男 そんな状態でやって、意味あるんすか？

寧々 意味はないんじゃない、はじめっから。

一拍。

一三男 そっすか。

寧々 うん——。そう言えばさあ、フミオ君と最初に会った時は引き止めてもらったんだよね、
結果として（笑）

一三男 でしたね。

寧々 ごんなこと言ったら「俺が「困っちゃうのかもしんないんだけどね、

一三男 はさ？

寧々 あたしやっぱ散りたくないわあ。

一拍。

一三男 変わったんすか、なんか状況が？

寧々 知らない。わかんないけど。

一三男 そつすか。

一拍。

一三男 あの、死のうとする人間を止める、「殺し文句」ってのが二つあるんすよ。

寧々 「殺し文句」じゃ、殺しちゃうじゃん(笑) えい、えい、わー。

一三男 そういう意味じゃないっす(笑)

寧々 「命を大切にね」とか、そういうやつ？

一三男 そんなん一番意味無いっす。命が大切だっすことぐらい、誰だっすわかってますから。

寧々 「人生苦もありゃ楽あるさー!」今はがんばろう!」とか？

一三男 さすが、経験豊富!

寧々 うるさいよ(笑)

一三男 やっぱこの世には、生きていてもいいことなんてひとつもない連中がいるんすよ、絶対。

それはもう、しょうがないじゃないっすか? そんな人間を救える言葉って結局たぐさんは無い

んすよ。

寧々 うん。しょうがないね。

一三男 一番効くのはやっぱ直接、「死んじゃやだー!」って言うてるじゃあないっす。それ言われち

ゃったメンバーはなかなか死んでくんないっす。

寧々 意外とシンプルなんだね。

一三男 「死んじゃダメ」な理由なとてくくくくくも反論をわちやいますからな。ね。でも「やだー!」

っ、っ、反論できないじゃないっすか? 理屈じゃないから。

寧々 それが「殺し文句」?

一三男 それがひとつっす。もうひとつが俺のやったことっす。

寧々 なに?

一三男 「あなたの命を俺にくれ」です。

寧々 図々しい。

一三男 でも、命だけでも必要とされたら、そのために使っただけでいい、っと思っちゃ

うお人好しもいるんすよ。

寧々 そんだけ必要とされたらっつことなんじゃなくの?

一三男 意味分かんないっすよね。俺はどっちかつつと「必要としたい」側の人間なんで。

寧々 それは、確かに。

一三男 これってあれすかね、俺が男だからですかね?

寧々 ——フミオくんがさっつう人だ、っつことなんじゃない?

一三男 フフ。「虫でもがー」って感じすか、こいついつヤツは？

寧々 んーん。そういう人がいなきゃ、尽くす相手もないじゃない？

一拍。

一三男 寧々さんが散ったらダメな理由ってまあ、正直全然無いんですけど。

寧々 うん。

一三男 俺は散って欲しくないっす。

寧々 へー、「死んじゃヤダ」？

一三男 はい、少し。

寧々 少しかあ。

一三男 でも、俺は心の底から「ヤダ！」なんて言える人間一人もいないっすよ。というか、本当はみんな居ないんじゃないすか？ 別に嘘ついてるとまでは言わないですけど、——酔ってるんすよ、そんなこと言ってる自分に。

寧々 それはそうかもね。いたいた、酔ってる人。

一三男 そっすか。

寧々 うん。

一拍。

寧々 ね、あたしが散ったらちよつとは悲しい？

一三男 それ聞いててどうすんすか？

寧々 っつじゃん、答へんすよ。

一拍。

一三男 泣きますよ。大泣きします。

寧々 ははは。ホント？

一三男 ホントっす。

一拍。

寧々 なんかありがとう。嘘つかれてるのに、騙されている気がしない。

一三男 人騙すために嘘なんかついたこと無いっす。

寧々 へー？ じゃあ、何のためにっつへのの？

一三男 礼儀っす。

◆音響：曲「但馬のテーマ」
間。

一三男 じゃ、先、いってます。

場面転換。

あーあ。しあわせだった。

テン ころころしゃーい。

▼音響：SFE 旅客機の飛び音

サンゲのメンバーがいつぱんに「散る」。

◎■A 覚醒夢の欠片

再び、冒頭の「旅客機」の風景。
暗転。

子供1 わああ。

子供2 きれいだねえ。

子供3 きれいだねえ。

間。

子供2 燃えてるね。

子供3 燃えてるね。

子供1 燃えながら動いてるね。

子供2 燃えながら走ってるね。

子供1 燃えながら踊ってるね。

三人 燃えてるねえ〜！

父 いいからお前らもちゃんと寝てけよ。

子供3 なんでだよー。

母 ほら、ちゃんとアイマスクして。

子供2 うっとおしいよ、こね。

子供1 真っ暗になっちゃうんだもん。

父 真っ暗の方が、よく眠れるだらうっ？

◇音響：曲out 誰でもよかったのテーマ

照明変化。

以後、かなり長い間、相当暗い照明。

◎■B 菊池みのり

佐渡島 ——夢？

みのり 燃えている夢。あのね、熱いんだよ火って。最悪だよ燃えて散るのは。でもサンゲの中では焼身は最高の散り方の一つ、ってされてて。やっぱりインパクトがハンパないしね。

佐渡島 散り方にもいろいろあるの、ランクづけと違ってうかががあるんだよね。

みのり うん、そうなん、サンゲ。

一拍。

みのり だから飛び降りとかの人も結構いたし、焼身もいたけど、やっぱり首吊りが一番人気があつたかな。

佐渡島 人気って——。

みのり あとはねえ、お風呂場でお酒いっぱい飲んで手首切ったり、あ！あの、寒い国の人でお酒いっぱい飲んで全裸になって、それで花束だけ抱えて凍死とかしてた人もいたよ。

一拍。

みのり 綺麗だったなあ、あの人——。めっちゃおっぱいもキレイだったし、バラもキレイだったし、金髪で、肌も超キレイで、「え、なんであなたが？」って言うと思うけど、なんていうの、「よくやったー」「じゃないけどね」「お！」「お！」って思った。やっぱりそういう人が散らなきゃ意味ないじゃん？お婆さんになっしてから散っても「ぶーん」って言われちゃうからさ。そういう時に散らなくちゃ。

一拍。

みのり じゃああたしはさしうさ。さしうさ、さしうさ、さしうさ。

一拍。

みのり そういつのはやっぱり辞めた方がいいんじゃないかな。サンゲとか。なんか、いろいろ理想があんのはわかるけどさ。自然じゃないよ。うまく言えないけど、なんかわかるでしょ？わかんないか？わかんないならいいか。あたしもわかんないし。ハハ。じゃあ言うなよな、って？
しゅめ。

佐渡島 フフ。

間。

みのり わかっしゅめ。わかっしゅめ。わかっしゅめ。わかっしゅめ。わかっしゅめ。わかっしゅめ。わかっしゅめ。

間。

みのり みんな逝っちゃった。残念だよね。あたしのことを覚えてる人はもう、誰もいませんから。誰も知らないあたしの若い頃なんて無いも同然じゃん？ どんな嘘ついたって誰にも何もわかんないんだからさ。

間。

みのり たまーに思うんだけどね、大した動物じゃなかったのかもしれないね。人間は。

間。

みのり でも、あたしは結構気に入ってました。

◆音響：曲「人類のテーマ」

舞台上、「授業の場」と「討論会の場」が並列してゐる。

授業の場。

三ツツ ところなものです。ええ。すべての暴力に抵抗して戦っているのだな——。だいたい戦っているの言っているのよ？ 私たちのような「怒り」に反対する立場からすれば、戦ってしまつたら、おしまひです。さあ、サンゲの「物語」も、もうすべおしまひです。

再び、討論会の場。

ハナ そろそろ結論を出してもいいんじゃない？

ジヨー 異議なし、賛成賛成。

カオリ そうだね。もう十分。もう十分すべいらい、見たよ。

授業の場。

三ツツ 命がけになつて「シフト」をする時に、つい、人が輝いてしまうのは、仕方がないことです。輝いている人はみんなそうです。人は、そういうものだから魅力を感じてしまつたのです。その陶酔の中にあつて、私たちは間違えました。その美しさの中にあつて、私たちは間違えました。——美しさの前で沈黙してはいけません。霞がかつた深夜の森に、ぼっかり浮かぶ上弦の月が、まがいものであつた疑ひを、疑つてみなへてはいけません。

討論会の場。

ハナ 結論。あたしたちに「怒り」は要らない。それでたとえ、人間が人間でなくなつてしまつてもかまわない。

カオリ そうね。すべての「怒り」を禁止しよう。

ジヨー よーし、そんなじゃあ、決を採ろう。議長！

テン それでは、再度、採択文について確認をいたします。

ジヨー はいはう。

ジユン やっつてはう。

一拍。

テン この国の国民は、正義と秩序を基調とする世界平和を誠実に求め、国家権力の発動としての殺し合いと、自殺に基づいた脅迫、又は、「怒り」の感情は、あらゆる争いを解決する手段として、永久にこれを放棄する。その目的を達するため、あらゆる種類の「怒り」は、これを保持しない。したがって、「この国」が「怒り」をあらゆる手段で「これを認めない」。

一拍。

テン 以上の採択文に賛成される方は、ご起立を願います。

全員立ちあがる。

テン 賛成多数。以後、この国は「怒り」を、永久に放棄します。

ミシマ 「この国」の人たちは、「怒り」を退化させる道を選びました。

生徒たち、歓声を上げる。

◎ ■ B 未来は早回しにされる回想シーンではない

教室の風景となる。生徒たちがいる。

舞台上、別の場所を浩一が歩く。さらに別の場所に、太地と菜津も登場している。

浩一 きっと未来は昔のじゆん。

俺たちの子供たちは、俺たちと同じくらいにはダメな奴とかにもなって。根性が無かったり。

じじだっていうじじでがんばれなかったりして。俺たちの親とか。

そのもっと前の人達とかもそんな感じだったのかもしれない。

未来は早回しにされる回想シーンでいっぱいだ。

今日も銃弾が飛んでいき、今日も誰かが死んでいく。

太地 誰に習ったんだ？ その空っぽの言葉。

浩一 間違えるな。

これは何かが生まれていく声じゃない。似ているけれど確かに違う。

これは何かが、死ぬ時の声だ。

ナツ 「ーちゃん。

もうじはらひ会つてしませな。

もっとたくさんお話をすれば、もっとわかりあえたのかもしれない。

でも、もうおしまひます。

今度の殺し合ひでもしもこの国の軍隊が核爆弾を使ってしまったら、——サンゲはじつじゆるんですか？ やっぱり、その時はサンゲも「抗議」をするんでしょっ？

ソウ 夢から夢への綱渡り。

夢から夢へと続く道。

ナツ 生きている人間の言うことは聞いてもらえないので、じつじゆ形でいきます。

どうかーつのちいさな命とひきかえに、サンゲを解散してください。

人の命を使って「お願い」をするじゆが、間違えていることを証^{あかし}立てるため。

ひとつの命を無駄にします。

あたしの命を無視するじゆがとめるな。

あなたたちのやっているじゆだつて、無視されます。

死のうとする人はみんな誰でもどこか狂っているんだ。

きっとあなたは、そう思うのかもしれない。

私も、そう思う。

だけどあたしはいます、狂つてはいないじゆ。

生きていくじゆは妥協じゃ。

妥協なくやれるのは死ぬじゆだけです。

それでも決して、死ぬことは抵抗なんかじゃない。

生きてこそ、抵抗です。

それをこんな、矛盾した方法であなたに伝えられるかしら？

舞台上、別の場所に美耶と太地がいる。

美耶 お母さん、じゆつかにいつちやじゆの？

太地 そうなんだ。じゆはじゆつかにじゆ旅行だ。

美耶 いじ帰ってん？

ナツ いつかきつよ。

美耶、舞台上、別の場所にいる菜津に返す声、

美耶 あたしお母さんに会いたいなあ。

ナツ そうね。あたしもだよ。

美耶 だってあたしまだ、お母さんに産まれてきてないんだよ。

◆音響：曲「いつかきつよ」

ナツ 待っててねー！

月の剥がれるその夜を。

年に何度かあるんだよ。

そんなに珍しいんだよ。

ソラ だけさ、

それが目の前で起きるんだよはきつよ、人生で一度あるか無いか。

みのり 返らない。

くしもくしも。

命だけが、どこかへ行ったきり帰ってこない。

イノリ、何処かへ向かって手を振ってさよなら。

イノリ おーいおーい！ おーいおーい！

大勢の人がどこかへ向かって手を振っている。

やがて数が減っていき、手を振っているのはイノリ、一人となる。

イノリ、手を振ってどこかへ呼びかけるのを諦めて、手を下ろす。

◆音響：曲「ダンス・シーン」

ダンスを終えた俳優たちは。そのままそこに跪き、祈る。
暗転。

幕